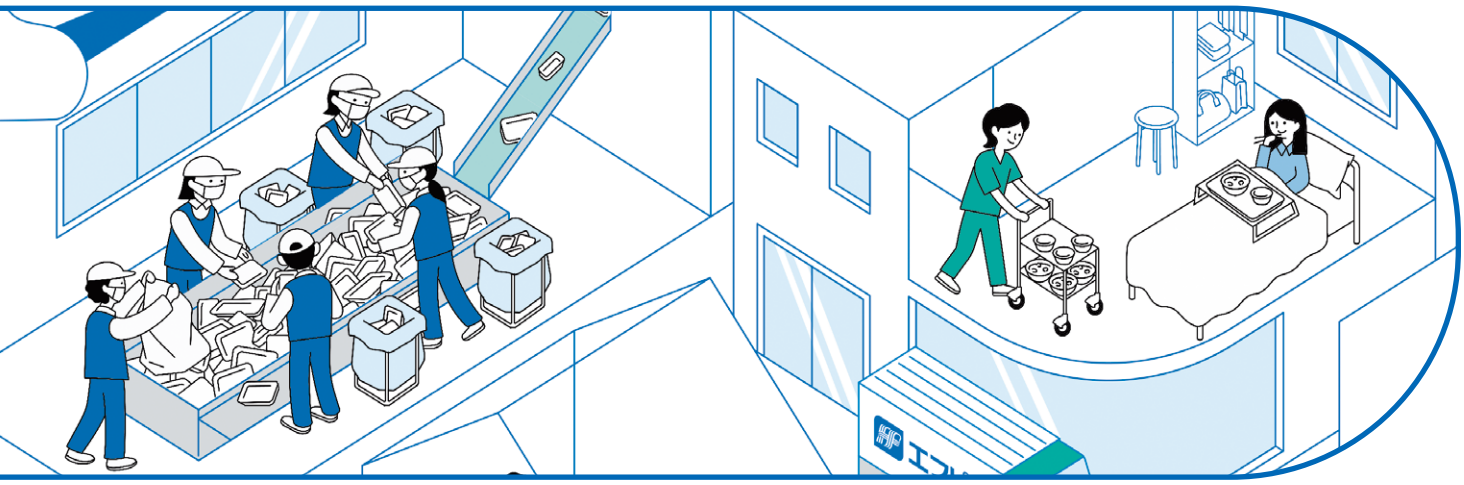
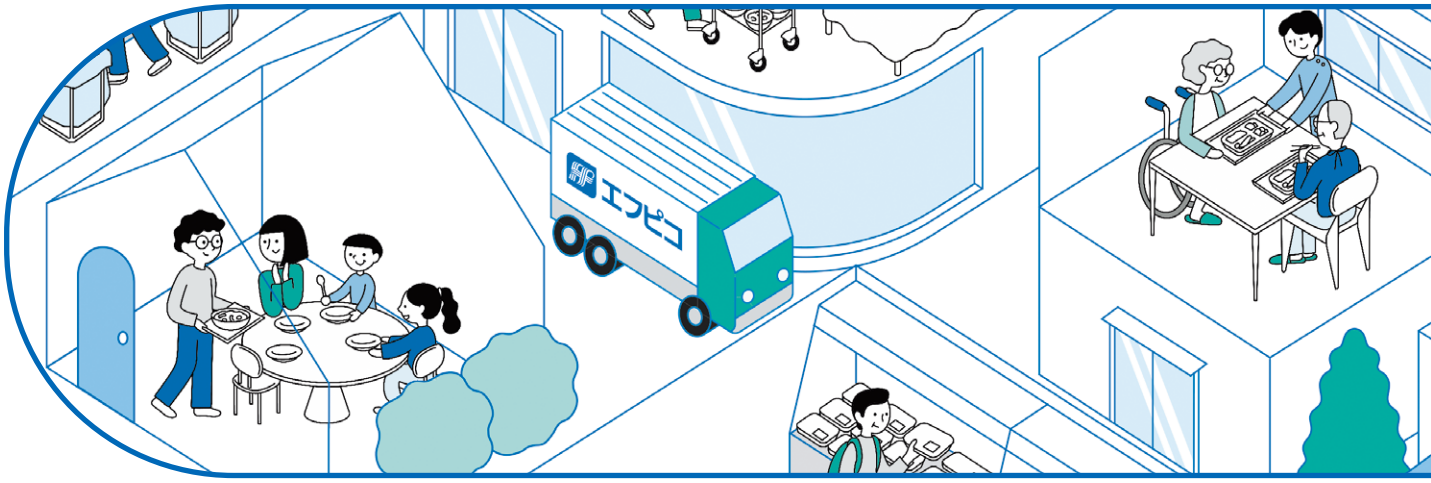
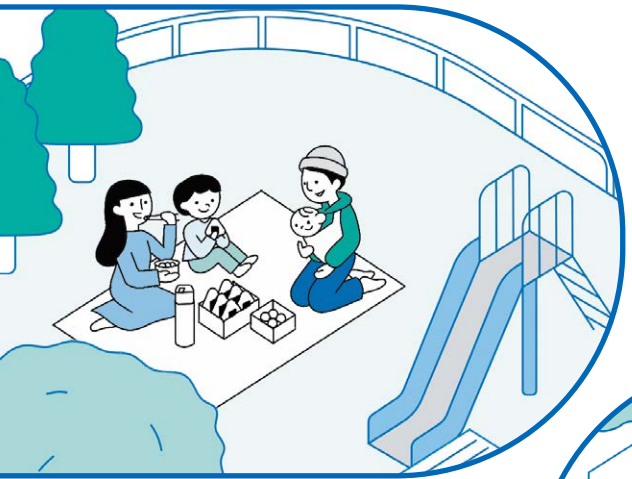
エフピコ

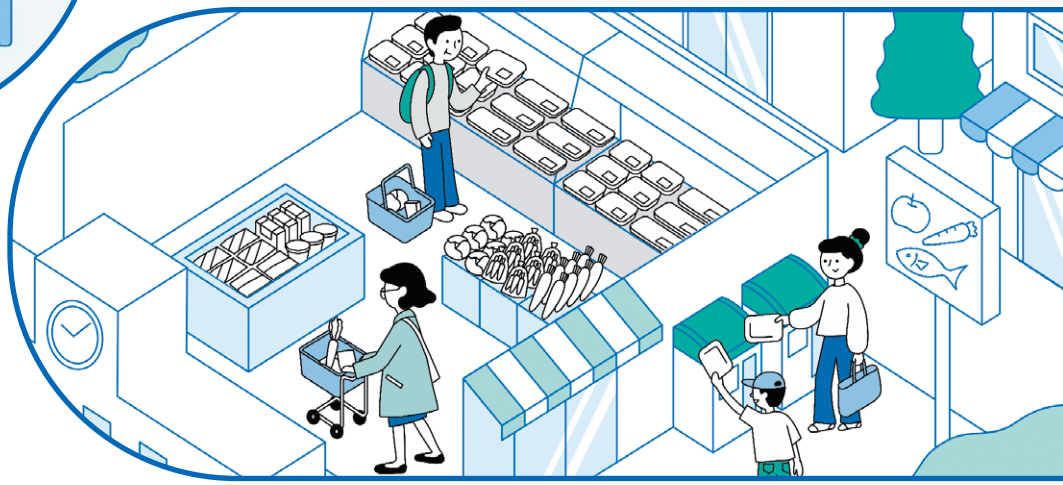






FPCO REPORT

エフピコレポート 2026



食品トレー・容器で
未来を創る。

エフピコは食品トレー・容器の製造、販売、リサイクル事業を通じて、快適な食生活の創造に努めています。これからも、創業以来貫き続けてきた「現場主義」「顧客第一主義」を徹底し、「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」という経営理念を実践してまいります。

社訓

1. 責任
2. 自信
3. 和
4. 忍（がまん）
5. 健康

経営理念

「現場主義」「顧客第一主義」に則り、
「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」
「どこよりも競争力のある価格で」
「必要なときに確実にお届けする」

エフピコグループが目指すもの

食品トレー・容器メーカーとして

持続可能な社会の構築
安心・安全で豊かな食生活の創造
「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立

社会の一員として

経営基盤の強化
地域社会との共生



CONTENTS

社訓・経営理念・エフピコグループが目指すもの …… 1

イントロダクション …… 3
エフピコグループ代表メッセージ …… 3
エフピコグループの重要課題 …… 9
TOPICS …… 10
事業内容／製造・販売製品 …… 11
エフピコの価値創造プロセス …… 13

エフピコグループのバリューチェーン …… 17
エフピコ代表取締役社長メッセージ …… 17
SCM が回すエフピコのバリューチェーン …… 21
エフピコのバリューチェーンによる社会的価値創造
～“エフピコらしさ”ができること～ …… 29

特集：エフピコフェア
～社会的価値のショーケース～ …… 39

サステナビリティ …… 45
環境における取り組み
サステナビリティ基本方針 …… 47
サステナビリティ推進体制 …… 47
環境方針 …… 47
エフピコ・エコアクション 2.0 …… 48
エフピコ・エコアクション 2.0 指標と目標 …… 49
TCFD 提言への賛同について …… 51
環境に関わる外部評価 …… 51
エフピコ方式リサイクル …… 53
「ストア to ストア ®」の取り組み …… 53
リサイクル工場見学・オンライン工場見学 …… 55
出前授業・講演などによる情報発信 …… 56

社会における取り組み …… 57
インクルージョンの推進 …… 57
健康経営 …… 59
人材育成方針 …… 61
社員のエンゲージメント向上 …… 63
コミュニティへの参画 …… 66
エフピコ環境基金 …… 67

ガバナンスにおける取り組み …… 69
基本的な考え方 …… 69
ガバナンス体制 …… 69
コンプライアンス …… 70
リスクマネジメント …… 70
株主との関わり …… 70

企業プロフィール …… 71
グループ会社・拠点一覧 …… 72
人材データサマリー …… 73
財務サマリー（連結） …… 74
環境データサマリー …… 75
ESG 指数・社会的な評価等 …… 77
エフピコのあゆみ …… 79

エフピコグループ
マスコットキャラクター
ピコザウルス



編集方針

エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載することを心がけました。
本レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年）」、国際統合報告フレームワーク（IIRCフレームワーク）、および「価値協創ガイダンス2.0」を参考にしました。
対象期間：2025年4月1日～ 2026年3月31日
対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

エフピコレポート 2026　発行日：2026年6月

昨日より今日、今日より明日。
より豊かな社会の創造を見据え、
人にいい、食にいい、地球にいい、
持続可能なものづくりを続けていきます。

　エフピコは食品容器の製造と販売、そしてリサイクルを手がける会社です。様々な機能を持つ食品容器によって毎日の食生活に利便性を提供するとともに、地球環境のことも考えながら、食品の美味しさや安心・安全をお届けするお手伝いをしています。

　エフピコが使用済み容器のリサイクルをスタートしたのは1990年のことです。35年以上続けてきたリサイクル事業の歩みのなかで、エフピコのステークホルダーは、スーパーマーケット様やコンビニエンスストア業界にとどまらず、環境関連分野、自治体、市民団体などへと広がっていきました。

　さらに、時代のニーズに応じて開発されたエフピコの食品容器は、デリバリー、医療・介護といった多様な生活シーンでも採用されるようになり、エフピコと社会との接点は着実に拡大しています。

　こうした背景も踏まえ、当社の企業活動と理念をより広く伝えるため、2025年3月から4月にかけて3回にわたり日本経済新聞に全面広告を掲載※しました。さらに9月にはブランディングムービー『名前は底にあります』も公開しています。このムービーでは、エフピコが食品トレー・容器の製造・販売を通じて日本の食文化を支え、持続可能な社会の実現に向けて活動する姿をわかりやすく描いています。

　エフピコが生み出している社会的な価値は多岐にわたります。食品の安定供給に加え、食品ロスの軽減、人手不足への対応、環境負荷の低減、プラスチックごみ問題への取り組みなど、私たちの事業が社会の様々な場面で誰かの役に立っていることは、エフピコグループ全社員のモチベーションであり、誇りでもあります。

　本レポートでは、エフピコがどのように価値創造に取り組んでいるのかをお伝えしています。エフピコの現在地と未来への挑戦を、多くの皆様に感じ取っていただければ幸いです。

代表取締役会長
兼 エフピコグループ代表

佐藤守正

ブランディングムービー
『名前は底にあります』の
ご視聴はこちら ▶

※第74回日経広告賞「環境・サステナビリティー部門 優秀賞」を受賞





私たちがつくる食品容器は食の流通の一端を担っています。製品の安定供給は皆様へのお約束です。



人手不足という社会課題や現場の課題に向き合いながら、容器開発で応えるための検討が重ねられています

安定供給を約束するインフラネットワーク

私たちエフピコグループは、食品容器というかたちで食の流通の一端を担っており、皆様の豊かな食生活の実現をサポートできる喜びを日々新たにしています。だからこそ食品の安定供給を支え続けることに重きを置き、独自のサプライチェーン・マネジメントシステムのもと、グループ全体で構築した生産・物流・リサイクルのインフラネットワークをアップデートさせています。現在、エフピコの製品は約12,000種類に上りますが、コロナ禍以降ほぼ欠品ゼロを継続中です。

当社独自の自社物流ネットワークを持つことの意味は大きく、多様なニーズへのフレキシブルかつ迅速な対応を可能にし、省コストや省資源、環境負荷軽減にもその力を発揮します。「物流2024年問題」への施策も導入しやすく、ドライバーの荷待ちや積み込み時間の短縮に繋がりました。

こうした自社物流によるメリットを最大限に活かせるよう、全国に21ある生産工場のうち9カ所で物流施設を併設しています。生産から配送までをシームレスに実施できる、エフピコ独自の効率的な業務フローを実現しています。関東、中部、関西と地元福山においては生産・物流・リサイクル集約型の機能を持つ拠点を設けており、新たな施設の計画も進行中です。こうした施策により、物流拠点から半径100キロメートルの範囲で、日本の総人口の85%をカバーできる効率性の高い供給網をつくり上げています。

もちろん食品流通の一端を担うインフラであるからには、災害などへのリスクマネジメントは不可欠です。東日本大震災からの復旧の際に経験した教訓を得て、主要製品の生産・物流体制を東日本と西日本のそれぞれで可能にするよう体制を整備しました。加えて、全国の主要な物流拠点において自家発電設備を3日間稼働できる燃料と共に配備、停電時に備えた訓練を定期的に実施しています。

「ストアtoストア®」が牽引する循環型リサイクル

使用済みトレーを回収しトレーとして再生する循環型の「エフピコ式リサイクル」も、自社物流のインフラネットワークがあって初めて成り立ちます。製品を店舗に納品した後、空いたトラックに使用済みトレーを積んでリサイクル工場へと運び、再生材を製品生産工場へ移動するという流れを効率よく行えるのは自社便だからこそなのです。



株式会社ダイエー様との共同記者会見（2026年4月）

現在、私たちは「エフピコ式リサイクル」拡大に向けて「ストアtoストア®」のコンセプトを提唱し、スーパーマーケット様との連携を強化しています。店頭で購入した食品トレーやペットボトルがリサイクルされ再び店頭に並ぶ様子を実際に目にしてこそ、消費者の皆様も、より自発的に参画いただけるでしょう。店舗を発着点とすることで、日常的な習慣として根付かせられる。私たちの取り組みへの想いに多くのスーパーマーケット様が賛同くださり、地域のエコリーダーとしてエフピコと協働宣言を交わされた企業・店舗様は2026年6月現在で145社、5,440店を超えるまでに拡大しました。

この「ストアtoストア®」に自治体ルートからの回収分を加えると、2026年3月期で約9万トンの使用済みプラスチックをエフピコは処理し、エコ製品の原料にしています。これは、私たちが販売しているプラスチック製品総重量の42%に相当します。つまり重量ベースでは販売した製品の半分近くがエコ製品に生まれ変わっているとも言えます。しかも、バージン原料からつくられた製品を使用する場合に比べ、発泡製品のエコトレー®で約33%、透明容器のエコAPET®・エコOPET®製品で約30%のCO_2削減効果が認められています。

人手不足という社会課題に容器の開発で応える

サステナブルな社会の実現を目指していくうえで、環境負荷の軽減と共に頻繁に取り沙汰されるのが人手不足の問題です。私たち自身も含め、業界・業種を超えてほとんどの企業が直面していると言えるでしょう。エフピコの食品容器を使っていただいているスーパーマーケット様などの店頭やバックヤード、食品製造の現場も然りです。容器のサイズや形状、仕切りなどが食材の盛り付け作業を軽減する場合もあるため、私たちは食品売り場やバックヤードを頻繁に訪問して現場のニーズを探り、製品の仕様変更による作業の効率化提案を行っています。

一方、惣菜などを製造し店舗に納入するプロセスセンターやセントラルキッチンなどでは、人手不足を補う目的での生産ラインの省人化が加速しています。さらなる自動化に向けた最新マシンの導入・切り替え時には、機械と食品容器の形状・材質との相性が重要となりますが、エフピコでは機械メーカー様と綿密に連携を図りながら省人化に即した製品を提供しています。

人手不足問題に対応する容器も当然のように多様化していき、全体で見ても1年間に生み出されるエフピコの新製品は、1,000アイテム以上にもなっています。こうしたニーズに対応するため、完成度の高いサンプルをつくって提案し、迅速に製品化できる体制をエフピコは整えています。



広がる“冷凍”の可能性。エフピコフェアで紹介される多様な事例





人手不足が深刻な医療・介護用給食。耐寒性素材「PPiP-タルク®」を使用した見た目でも美味しさを演出し、冷凍対応で業界が注目するFT華小町®



新OPPシート「OPTENA（オプテナ）」を使用した、車両内装部品向けの加飾シート。
インモールド成形により、意匠性と耐久性を兼ね備えた仕上がりを実現



食品の鮮度や見た目に影響する“ドリップ”を、トレー自体の構造でコントロール。底にたまる汁の課題を改善した「DPシリーズ」

成長マーケットである
冷凍食品に対応する容器の開発

今、スーパーマーケット様などの店頭で目を引くのが、冷凍食品の活況振りです。元々の専用フリーザーだけでなく、鮮魚や精肉売り場、惣菜周りにもコーナー展開されているなど、大手冷凍食品メーカーの商品のみならず、スーパーマーケット様が自ら惣菜を冷凍して提供する取り組みも始まっています。ワンプレートものなどもバラエティ豊かです。美味しさの向上と時短へのニーズが合致して、需要の高まりに繋がっているのでしょう。当然、容器にも新たな機能と品質、多様な形状が求められていることは明白で、エフピコとしても冷凍食品用容器の開発を強化し、新製品を上市してきました。

また、エフピコにとって新たなマーケットになると確信をもって開発を進めているのが、医療・介護施設の給食向け冷凍食品対応容器です。ここでも人手不足は深刻で、調理の支度やファーストユース容器を利用した冷凍の給食に対する関心は非常に高く、冷凍庫や解凍機の進化という追い風もあります。エフピコは一昨年開発した耐寒性素材「耐寒PPiP-タルク®」という、給食用冷凍食品に適した素材を持っています。冷凍時に落としても割れにくく、冷凍からレンジアップの温度まで対応できる容器です。この耐寒性素材の開発により医療・介護施設の給食の条件をクリアすることができたのも、参入の大きな要因となりました。

冷凍市場への参入には、さらに、もうひとつの技術開発も役に立ちました。医療・介護施設での給食向け容器には、“うつわ”らしい質感、加飾、加えて主菜・副菜・付け合わせの判別しやすさが求められます。食事の楽しみは健康の維持・快復に役立つという観点からですが、食器を模した縁取りや柄付けに必要な正確な定位置の印刷をこれまでの成形機は苦手としてきました。エフピコは真空圧空成形という方法により定位置の印刷・成形の精度向上と同時に、成形サイクルを従来の1/2にまで短縮しています。

冷凍および医療・介護の分野は今後さらなる需要の拡大が見込めるため、より注力していきたいと考えています。

大きな可能性を秘めた新素材の製品化へ

発想の転換が、革新への糸口となることがあります。私たちエフピコグループの未来を担うことになるかもしれない、世界初の2軸延伸ポリプロピレン（新OPP）シートの製造技術もまさしく逆転の発想の賜物と言えます。この技術は、10年に亘る2軸延伸の研究開発の最中に、ポリプロピレン（OPP）の思いもよらない新たな特性を得たことがきっかけでした。ポリプロピレンを特定の厚みのある状態から縦横に延伸するアプローチを行なってみたところ、ある延伸倍率で炭素繊維にも匹敵する剛性を持つシートが生成されたのです。

そこからドイツの装置メーカーと共同で研究開発を進め、試行錯誤を重ねた結果、高い透明性に加えて高剛性、高靭性、耐寒性、耐薬品性を兼ね備え、しかも成形・加飾も可能な新素材技術の確立に成功しました。この新素材のシートを積層しプレート状にすることで、さらに興味深い特性を持たせられることも判明してきました。

2026年4月30日に記者発表を行い、製品化に向けた取り組みを本格化させています。そのための工場の建設も着々と進めています。この新OPPの活用は、食品容器の素材にとどまりません。これまでに得られている特性からは、自動車部品や住宅関連部材といった新たな産業分野での活用も見込め、軽量化やプラスチック使用量の削減効果をもたらします。学術的にも注目されており、エフピコ発のイノベーションとして、これまでにない全く新しい価値創出の起点になると意を強くしています。将来的にはエフピコに素材メーカーとしての一面を加えられるものと今後に期待せずにはいられません。

社会の中で活きる“エフピコらしさ”

現場のニーズに応えることにとどまらず、自ら発掘し掘り下げていく。お客様以上に商品・売場に精通することを目指し、トータルな売場改善の提案に活かし切る。経営理念に掲げる「現場主義」「顧客第一主義」は、それほどまで徹底して実践できていると自負しています。

例えば、一昨年より開発を続けている製品に、精肉や鮮魚から出るドリップをトレーの底の形状で受け止めて、こぼれ流れないようにする機能を持たせたタイプのものがあります。売る側も買う側も誰もが感じていた、トレーの底にたまったドリップの問題を改善しようという試みです。このシリーズの製品は間もなく上市の予定であり、経営理念に基づいた開発努力が具現化し、社会のなかで生きる新たな例となるでしょう。それが私たちの考える“エフピコらしさ”のひとつです。

私は社員と共に“いい会社”の実現を目指し、日々そのための一つひとつを実践しています。今日より明日と常に進化し続ける会社、仕事に誇りが持て働き甲斐のある会社、家族に自慢できる会社など。そして、“いい会社”の実現には“エフピコらしさ”が必要不可欠です。社会のなかで価値を提供する“エフピコらしさ”は、常に進化を続けようという想いの表れです。エフピコグループの経営責任者として、私は“エフピコらしさ”にこだわった製品、サービスの提供と“いい会社”の実践を続けていきたいと考えています。

2026年エフピコグループのテーマは「尽己（じんこ）」としました。自分の能力やエネルギー、持っているものすべてを出し切って挑む姿勢を意味します。個の成長、それが掛け合わされて、強靭なグループパワーとなります。重要なのは、どんな環境下であろうとも立ち止まることなく成長を続けていくことです。

もちろん、グループ会社や関係会社をパートナーとするフラットな関係性や、私と社員が集まり自由に発言し合える「ワイガヤ会議」の定期的な開催など、オープンな社風は職場環境の改善のみならず革新を生み出す重要な要因のひとつですので変えるつもりはありません。

そしてお客様の発展と企業価値の向上を、すべてのステークホルダーの方々の期待を超える成長を、さらには持続可能な社会の実現に向け革新的な価値創造を、尽己をもって成し遂げていきたいと考えています。

MATERIALITY

エフピコグループの重要課題

エフピコグループではビジネスモデルの持続可能性にとって重要なリスク及び機会の観点から、
重要課題（マテリアリティ）を定めて、様々な取り組みを行っています。マテリアリティは
サステナビリティ推進管理委員会にて作成し、取締役会の承認を経て決定しています。



事業等のリスク

当社グループの経営成績、財政状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

1. 原料価格について　2. 自然災害・事故・感染症の発生について　3. 人材確保について　4. 気候変動について

将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであり、
また当社グループに関するすべてのリスクを網羅したものではありません。

詳細はウェブサイトをご参照ください：https://www.fpco.jp/ir/report/report_securities.html

IR資料

TOPICS

新OPPが切り拓く、次世代素材への挑戦

エフピコは2026年4月30日、新たに開発した素材「新OPP」に関する記者発表を行いました。従来はフィルム用途が中心だったOPP（二軸延伸ポリプロピレン）を、厚みを持たせ物性を向上させることにより、食品容器から産業用途まで広く使える素材へと進化させました。今後はこの新OPPを活用し、二軸延伸シート「OPTENA」と積層プレート「FORTENA」を製造していく予定です。OPTENAは冷凍から耐熱まで対応する高機能シート、FORTENAは建設資材や自動車部品などへの展開が期待されるプレート材です。食品容器で培った技術をもとに、産業分野へと事業領域を広げる取り組みで、生産拠点としては茨城県坂東市に新工場を建設しています。

新OPPは、単一素材（PP100%）でつくられるためリサイクルしやすく、軽量化によって輸送時の環境負荷も低減。これまで複数の素材を組み合わせていた分野でも置き換えが可能となり、CO_2排出削減にも貢献します。エフピコは今後も、素材開発から製造、物流までを一体で担う強みを活かし、社会に新たな価値を提供していきます。

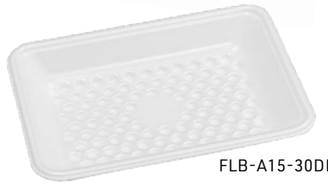

新OPP透明容器サンプル


OPTENAを使用した自動車のインパネ試作品

ドリップを“逃さない”トレー「DPシリーズ」


AP-TS DP
ハニカム構造


MSD美零 DP


FLB-A15-30DP

食品の鮮度や美味しさの印象を大きく左右する“ドリップ（肉や魚から出る汁）”を、トレーそのものの構造でコントロールする新しいトレーを開発しました。

トレー表面には、枠状のリブと微小なポケット構造を配置。表面張力を活かしてドリップをしっかりと留めることで、傾けても汁がこぼれにくく、売り場や持ち運び時の汚れを抑えます。底面にはハニカム構造を採用し、軽量でありながら十分な強度も確保しました。

さらに、従来必要とされていた吸水マットを使わずに済むため、包装作業の手間を削減。見た目にもドリップが目立ちにくく、売り場での鮮度感・清潔感を保つことで、購買意欲の低下防止にもつながります。

こうした構造的な工夫により、「作業効率」と「見栄え」を高める新しい製品として、食品の製造現場と売り場の双方に価値を提供します。

エフピコグループの事業内容／製造・販売製品

エフピコグループは、食品トレー・容器を製造、販売、リサイクルし、自社物流ネットワークを活かして、
「もっとも高品質で環境に配慮した製品を、どこよりも競争力のある価格で、必要なときに確実にお届けする」仕組みを構築しています。

製品開発・製造事業

全国各地の消費地を網羅する生産供給体制の整備

お客様のニーズを製品開発に反映するとともに、拡大する市場に対応して食品トレー・容器を安定供給できるよう、全国に21の生産工場を配置しています。SCM（サプライチェーン・マネジメント システム）により、販売部門の需要予測をもとに生産計画を立案し、資材の調達、製品の供給・在庫管理を一元的に行っています。



リサイクル事業

循環型リサイクルによる使用済み食品トレーなどの再生

スーパーマーケット様の店舗などで回収された使用済み食品トレー・透明容器・ペットボトルを、製商品配送後に空になった帰り便を活用し、全国の選別センターへ運びます。これらの使用済み食品トレー等は、リサイクル工場で原料に戻し、再び食品トレー・透明容器に生まれ変わります。このような「トレーtoトレー®」「ボトルto透明容器™」のリサイクルを推進しています。



倉庫・物流事業

全国を効率的にカバーする物流ネットワーク

約12,000種類の製品を安定してお届けするため、全国に9カ所ある物流拠点から半径100キロメートル圏内で日本の全人口の約85%をカバーする全国規模の物流ネットワークを構築しています。また、自社製品と一緒にスーパーマーケット様等で必要な包装資材・消耗品や衛生・作業用品などもお届けしています。



販売事業

お客様の現場を起点にニーズを把握した提案

食品販売の現場を重要視し、そこからお客様のニーズを見つけ、それに応える製品をつくる「現場主義」により年間約1,000もの新製品の提案が可能となっています。さらにお客様目線で見た売り場づくりのアイデアなどもご提案し「顧客第一主義」の理念を実践しています。



汎用





エコトレー（リサイクル製品）

サイズと色柄で様々な用途に活用が可能

クリアパッケージ





透明な容器が鮮度も美味しさも伝える

寿司





新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ

フードパック





衛生的で便利な機能を付加

精肉





衛生的で肉の旨味や色味を引き立てる

冷凍





容器や三方袋で様々な冷凍食品に対応

鮮魚





新鮮な海の幸の魅力を引き立てる

米飯





サイズと色柄で様々な用途に活用が可能

惣菜





電子レンジ対応などで扱いやすい

催事





人が集まる楽しい催事に最適

デリバリー





様々なメニューの配達に適した容器類

その他



紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など

エフピコの 価値創造プロセス

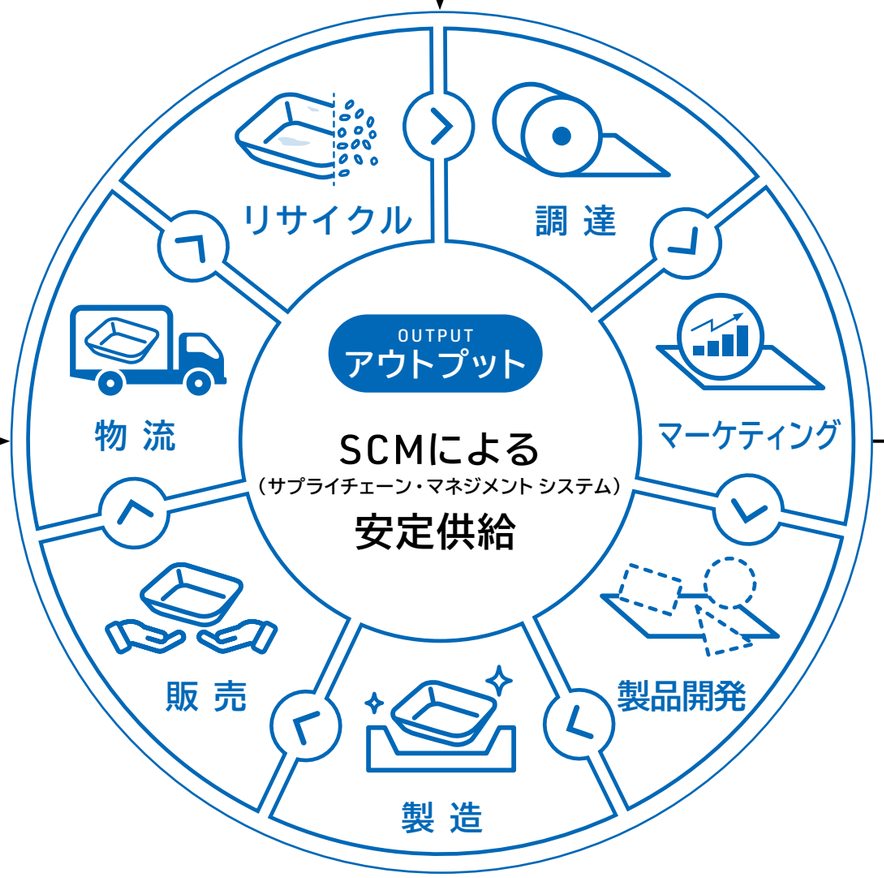
様々な価値創造を続けるエフピコグループは、独自のバリューチェーンにより
食品トレー・容器の製造、販売、リサイクルを行っています。
豊かな食文化と持続可能な社会の構築に貢献し、さらなる価値創造を実践しています。

INPUT インプット

経営資本

- 財務資本
- 製造資本
- 知的資本
- 人的資本
- 社会関係資本
- 自然資本

理念・ビジョンに沿った事業展開 ｜ **社訓・経営理念・ビジョン**（エフピコグループが目指すもの）



価値を創造し続けるバリューチェーン

OUTCOME アウトカム

エフピコグループが生み出す価値

経済的価値

- 売上高
- 経常利益

事業の拡大

- 付加価値を提供する製品
- 生産・物流ネットワークの構築

環境・社会的価値

- リサイクルによる地上資源循環
- エコ製品の販売による CO_2 排出量削減
- プラスチック使用量の削減
- 障がいのある人材の活躍

＋

- マテリアリティへの取り組み

持続可能な社会の構築



食品トレー・容器メーカーとして

・安心・安全で豊かな食生活の創造
・「もっとも高品質で環境に配慮した製品を必要なときに確実にお届けする」インフラの確立



社会の一員として

・経営基盤の強化
・地域社会との共生

INPUT インプット　価値創造のための6つの経営資本（2026年3月期）

財務資本

安定した収益基盤と健全な財務体質を通じ、持続的な成長と投資を支えています。

- 資産合計 2,922億円（2025年3月期）→ 3,040億円
- 自己資本比率 52.5%（2025年3月期）→ 54.1%

製造資本

最新の設備や技術を導入し、高品質な製品の生産と供給体制の強化を図っています。

- 設備投資額 161.1億円（2025年3月期）→ 185億円
- 生産工場 21工場（2025年3月期）→ 21工場

知的資本

独自の製品開発力やリサイクル技術を始めとした革新的なソリューションの研究開発を行っています。

- 研究開発費 15.4億円（2025年3月期）→ 19.0億円
- 意匠保有件数（2026年3月末）1,481件
- 特許保有件数（2026年3月末）119件

人的資本

社員の専門性向上や働きやすい環境づくりに注力し、組織の活力を高めています。

- 連結従業員数 5,250名（2025年3月期）→ 5,306名
- 障がい者雇用率 12.6%（2025年3月期）→ 12.5%

社会関係資本

消費者や顧客等を含めた、地域社会と信頼関係を築いています。

- 使用済み容器回収拠点数 11,000カ所（2025年3月期）→ 11,600カ所
- プラスチック資源市場回収量 トレー・透明容器・ペットボトル 90,000t

自然資本

リサイクル事業、エコ製品の開発・製造・販売、太陽光発電等による環境負荷の低減を行っています。

- CO_2排出量（Scope1+2）約18.2万t（2025年3月期）→ 約17.7万t（暫定）
- 太陽光による発電量 687,199kWh（2022年3月期）→ 7,571,494kWh

OUTCOME アウトカム　エフピコグループが生み出す価値（2026年3月期）

経済的価値

効率的な生産・物流体制と環境配慮型製品の提供で、競争力と安定した収益を実現。

- 売上高 2,356億円（2025年3月期）→ 成果 2,405億円
- 経常利益 184億円（2025年3月期）→ 成果 218億円

事業の拡大

①付加価値を提供する製品の開発

成果
- オリジナル素材：8種類
- オリジナル素材の出荷枚数ベース：69%
- 取得した意匠件数：152件
  2026年3月期実績（日本10位 2025年度出展：特許庁）
- エコ製品の販売全額：970億円 52%（販売枚数ベース）

②生産・物流ネットワークの構築

成果
- 配送センターから100km圏内において日本の人口の約85%をカバー

③M&Aによる販売力強化を含むグループインフラの活用

④冷凍、医療・介護給食等新マーケットの開拓

⑤新技術による事業領域の拡大

成果
- 溶解分離リサイクル技術によるエコトレー販売増加率：約30%増加（見込み）

環境・社会的価値

リサイクルによる地上資源循環

成果
- 使用済みトレー・容器回収実績ドラム缶換算（200L）：74万本分節約（2026年3月期）
- 1990年からの累積：876万本分節約

※発泡トレー：4g/枚、透明容器：10g/枚、ペットボトル：25g/本で計算（2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算）

成果
- エコ製品販売によるCO_2削減量：約21.1万t（2026年3月期）

成果
- プラスチック使用量の削減率：約60%（祝賀桶、氷河桶）

成果
- 障がいのある人材の活躍
- 障がいのある社員数：405名
- 障がい者雇用率：12.5%

成果
- リサイクル工場見学（2026年3月期）13,822名

※1990年より、累計約535,196人の見学受け入れ

成果
- 出前授業（2026年3月期）161回実施 9,897名

対面・オンラインによる出前授業・講演・お客様を通じて実施した出前授業

VALUE CHAIN

社会的価値を生み出すバリューチェーン

エフピコ代表取締役社長メッセージ …… 17
SCM が回すエフピコのバリューチェーン …… 21
エフピコのバリューチェーンによる社会的価値創造
～“エフピコらしさ”ができること～ …… 29

サプライチェーンを価値創造のバリューチェーンへと変える“エフピコらしさ”

食品トレー・容器の製造販売を手がけるエフピコは、BtoB（企業間取引）企業です。製品を製造し、お客様のもとへお届けするサプライチェーンは、当社の強固な事業基盤となっています。エフピコグループのサプライチェーンには、製品に高付加価値を与える研究・設計や、使用済み製品を地上資源として再利用するリサイクル工程などが組み込まれています。このエフピコグループ独自のサプライチェーンこそが、“エフピコらしさ”の価値創造の基盤となり、自らを、価値を紡ぐ「バリューチェーン」へと変革させているのです。エフピコグループがどのような価値を創出しているのか、またその社会的価値はどのようなものなのかを、ぜひご覧ください。



エフピコらしさで加速する、価値創造のバリューチェーン。

代表取締役社長

安田和之

自社物流から始まったSCM

エフピコが自社物流をスタートさせたのは1979年のことです。食品を包んで運ぶトレーや容器は、配送頻度が高いうえに、軽くてかさばるため運送費が割高になるという宿命的な課題がありました。外部のルート配送業者への委託はデメリットが大きかったことから、経営上のリスクを覚悟の上で、自社物流のパイオニアとなることを決断したのです。

この自社物流が軌道に乗っていた2003年、その高い自由度を活かしたさらに包括的なサプライチェーン構築を始動しました。こうして生まれたのが、エフピコ独自のサプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）です。現在、SCM本部はサプライチェーンの「司令塔」として活躍しています。販売部門の需要予測や物流部門の走行データ、リサイクル素材の生産量といった事業運営のコアとなる情報を一手に集約。各部門へ指令を伝達し、効率的で無駄のないバリューチェーンを支え続けています。



唯一無二のサプライチェーンがつくるユニークなバリューチェーン

自社物流という強みがあるからこそ、生産計画、在庫管理、そして配送計画までを分断することなくシームレスに策定し、実行に移すことができます。さらにエフピコのサプライチェーンを特別なものにしているのが、使用済み製品のリサイクルを組み込んだ「循環型」の仕組みです。製品をお届けした後の空になったトラック（帰り便）を有効活用して使用済み製品を回収し、自社のリサイクル施設へと運搬。これが再び新たな原料・素材へと生まれ変わることで、理想的な資源と製品サイクルの循環が完成します。

確かな精度と品質で「造って運ぶ」だけでなく、環境への負荷低減も同時に実現する唯一無二のサプライチェーン。それは、すべての部門が密に連携・協働し、社会へ多様な価値を創出し続ける「バリューチェーン」そのものです。

“エフピコらしさ”が価値創造の源

エフピコのバリューチェーンは、SCMを中心に「調達」「マーケティング」「製品開発」「製造」「販売」「物流」「リサイクル」の7つの部門（工程）で構成されています。各部門は部門間の垣根を越えて常にアイデアや情報の共有と交換、作業の連携と協力を行い、「現場主義」「顧客第一主義」に則り、「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」という経営理念の実現に努めています。そして、その実践こそが様々な社会的価値を生み出すことに繋がっているのです。

例えば、食品の美味しさや鮮度の保持、食品製造におけるオートメーション化への対応による人手不足対策、リサイクルに向けた店舗様との協働による使用済み容器の回収量アップなどです。その内容は、製品の機能により生み出されるもの、新素材の開発など研究開発によるもの、製造・物流の事業効率化によるもの、製品リサイクルに関わるものなど、エフピコが創造する社会的価値は多岐に亘っています。これらはすべて、自社物流、リサイクル、現場主義、顧客第一主義、さらには社内風土である協力と団結などの“エフピコらしさ”を源として生まれています。詳しくは後出の「エフピコのバリューチェーンによる社会的価値創造」をご覧ください。





食品の安定供給という最大の社会的価値

現代の食品流通の現場において、食品容器は欠かすことのできない「インフラ」です。とりわけ業界最大手であるエフピコの製品供給に少しでも支障が生じれば、極めて多くの食品販売に深刻な影響を及ぼしかねません。

SCMを駆使した精度の高い生産・物流計画により、製品の供給は順調に行われていますが、これがゴールということではありません。伸びしろはまだあります。AI活用のレベルアップや、サプライヤーに対してより長期の予測情報を提供することによる効率化、さらには、工場を動かす人材の育成プログラムの進化や、部門間をまたぐジョブローテーションによる広い視野を持った人材の育成など、できることはまだまだあるのです。

創業者の小松安弘は常日頃、「悪いことから報告しなさい」と言っていました。業務改善やリスクマネジメントの視点から、この考え方は非常に重要です。伸びしろを探して、そこを成長につなげる。昨日より今日、今日より明日と成長を続け、決して途切れることなく社会的価値を生み出していきたいと考えています。

エフピコらしさ × SCM（サプライチェーン・マネジメントシステム） → エフピコの価値創造



SCM が回す エフピコのバリューチェーン

エフピコのバリューチェーンは、SCM（サプライチェーン・マネジメントシステム）を司令塔に据え、
調達、マーケティング、製品開発、製造、販売、物流、リサイクルの循環により
社会のニーズに応える価値を持つ製品をつくっています。

1 調 達



環境負荷の低減に努めながら、品質・信頼を支える素材を安定的に供給

調達部門は「必要なときに確実にお届けする」という経営理念のもと、SCMからの指示により製品素材を手配しています。平時はもちろん、予期せぬトラブル時にも素材を滞りなく製造部門へ供給可能な体制を維持するため、原料・シート・副資材を含め主要お取引先約100社と契約し、複数の調達網を構築。さらに、工場に近い調達先の選定により輸送負荷の抑制を図るとともに、リサイクル素材の使用比率向上を通じて環境負荷の低減にも注力しながら、品質と信頼を支える素材の安定供給を担っています。

SCMにおける「調達」の役割

SCM

CSR 調達方針
エフピコグループ
購買ガイドライン
パートナーシップ構築宣言

調達指示

調達部門

エフピコ
独自の素材を
自社調達

素材の安定的な確保・供給

軽量化素材の開発・調達と
自社リサイクル素材の活用

リサイクル素材		バージン素材	
51％（2025年）	▶ 52％（2026年）	49％（2025年）	▶ 48％（2026年）

※PSP原反仕入実績（2025年度）重量ベースでの比率



回収率
約33％

発泡トレー生産量：約60億枚
回収量：約20億枚

CSR調達方針

品質本位：お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

公正な取引：経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮など総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

法令等遵守：調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

社会的課題への配慮：基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

環境への配慮：当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

サプライヤーとの協働：調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取組に努めます。

2 マーケティング



現場の声を価値へ変換し、ニーズに応えるものづくりを展開

マーケティング部門の役割は、市場やお客様との接点から得られる情報を価値へと変換することです。販売部門が食品売場で収集した現場の声を「日報」として集約し、生成AIを活用した分析結果をもとに考案したアイデアを製品開発部門へ共有します。また、大規模プライベートショー「エフピコフェア」の企画運営やお客様・営業スタッフ向けの勉強会の実施などを通じ、情報発信と提案機会を創出。これらの取り組みはSCMと連携したものづくりへ反映され、市場や社会の変化に応じた製品開発へ繋げています。

SCMにおける「マーケティング」の役割

マーケティング

情報収集	営業スタッフの日報や現場事例などの情報を収集
分析	お客様の「現場の課題」を抽出・分析し、仮説を立案
現場訪問	営業スタッフと現場を訪問し、お客様の課題を直接把握

人とAIの共創

営業サポート企画

販売を支援する企画を立案し、販売部門をサポート



製品アイデア提案

課題解決のアイデアを製品開発部門へ共有

アイデアの具現化

販売活動のサポート → 販売部門

製品開発のアイデア提供 → 製品開発部門

SCM → 製造プロセスへ

3 製品開発



独自技術・オリジナル素材により、アイデアを価値ある形へ

製品開発部門は最も多くの部門と連携しながら、それぞれの部門のアイデアや課題解決を具現化する製品設計を行なっています。新製品の開発だけでなく、製造部門との情報共有による設計精度の向上や物流の効率化に関わる仕様変更なども製品開発の仕事です。福山本社正面に位置する「エフピコ総合研究所」では、独自技術を基盤に年間約1,000アイテムの新製品を開発。同所内の基礎技術研究室では新素材開発および素材の品質・安全性の検証にも取り組み、安心・安全な食品容器づくりを支えています。

SCMにおける「製品開発」の役割

製品開発部門

製品イメージをスケッチや模型で具体化

新製品の開発

ラフスケッチや模型からデザイン化し、検討・調整

新素材の研究・開発

設計図の作成と素材の選定

製造開始時の立ち会いと必要に応じた調整作業





素材、製造方法、金型など製品製造に関する情報の伝達 → SCM → 調達部門

4 製造



自動化と技能継承を両立し、高品質な製品を確実に生産

製造部門の責務は、製品の安定供給と効率的な生産体制の維持です。SCMの生産指示をもとに、全国21カ所の工場を計画的に稼働させ、各地のお客様への迅速な供給を実現しています。工場ではロボットによる自動化を推進し、省人化と生産性向上を同時に実現。一方で人の技能が重要となる作業品質の維持・改善に向けては、先輩社員とペアで技術を学ぶ「マンツーマンリーダー制度」や技能の熟練度を確認する「技能判定」を導入しています。自動化と人材育成がエフピコの生産力と安定供給を支える要です。

SCMにおける「製造」の役割

SCM

2週先の生産計画を伝達

計画に沿って実行した生産実績をフィードバック

製造部門



1. 金型の移動
2. 生産ラインに素材設置
3. 押出・成形・裁断
4. 検品
5. 包装
6. 箱詰め・テープ留め
7. 計量
8. 倉庫へ移動

たゆまぬ人材育成



物流部門
同敷地内もしくは近隣の配送センター

生産の効率化
❹を除く❶～❽までの作業のほとんどはロボットにより自動化されています。
❷と❸の工程では、製造ミス防止と効率化のために機械の調整を手作業で行います。
これは蓄積したノウハウを次世代に伝える大切な作業です。

5 販売



「現場主義」に基づく提案活動を展開し、お客様にソリューションを提供

販売部門は「現場主義」の理念のもと、お客様との接点を通じたニーズ把握と価値提案を行っています。スタッフは食品売場を継続的に訪問し、課題や要望を収集。得られた情報は「日報」としてマーケティング部門へ共有され、分析結果を踏まえた提案として容器の開発や売り場づくりのアイデアとして活用されます。また、食品売場を再現した「エフピコフェア」など対話型の提案活動やリサイクル製品の普及を推し進めるための、店舗を起点とした「ストア to ストア®」の推進も販売部門が担っています。

SCMにおける「販売」の役割

すべての基礎となる数値の提供

販売部門

需要・受注予測
製品ごとの受注予測を行い、SCM本部をはじめ生産部門・物流部門にも情報共有

訪問・情報収集	お客様の店舗を訪問し売り場を観察。 また、他企業（店舗）の事例などの投げかけをすることで、 担当先の課題や優先順位をリサーチ
提案資料作成	リサーチ情報をもとにニーズを分析し、製品・陳列・ 販売方法を検討。他部門と連携して資料を作成
提案・課題解決	お客様の課題に寄り添った最適な容器提案を行い 売り場改善、作業性の改善を進める

多彩な提案型営業





SCM → 物流部門

6 物 流



物流の内製化による安定供給と使用済み容器回収による製品の循環を実現

エフピコの物流部門の特徴は、問屋機能を担う倉庫業と配送を担う運送業を一体運用した強固な自社物流ネットワークにあります。ほとんどの生産工場敷地内に配送・ピッキング両センターを併設し内製化を徹底することで、SCMと連携した正確な在庫管理と確実な供給対応を実践。中部を基点として全国を東西分割した流通網により、高効率な供給体制を確立しています。また納品後、空になった復路便を活用してスーパーマーケット様などから使用済み製品を回収できることも自社物流ならではの強みです。

SCMにおける「物流」の役割

SCM

指示

物流部門

配送センター



ピッキングセンター



入荷・在庫・出荷・ピッキング・配送を
正確かつ迅速に行うための業務最適化施策

- 工場集荷
- 製品配送
- 生産した製品の移動
- 金型の移動
  製品の生産用ツール

「ルートプランナー」で
最適な配送計画を策定

問屋など

納品スケジュールは
「RDチェックシステム」で
販売部門スタッフにも通知

納品

納品

届けて回収する
循環型
バリューチェーン

リサイクル工場
選別センター

製商品納品後の復路
リサイクルセンターへ

回収

スーパーマーケット　お客様　包材問屋

7 リサイクル



調達へ

使用済み製品の回収と再資源化を通じ、バリューチェーンの循環を実現

リサイクル部門は、使用済み容器の回収と再生を通じてバリューチェーンの輪をつくりあげます。全国17カ所のリサイクル関連施設では、スーパーマーケット様などから回収した1日約40トンの使用済み製品の選別・洗浄・粉砕・溶融を経て原材料となるペレットを生産。調達部門の指示を受け、このペレットは隣接する生産工場へ供給されます。また、使用済み透明容器の素材選別に最先端技術のシステムを導入することにより生産性を上げ、「ストアtoストア®」の推進による回収量増加にも対応できる体制を整えています。

SCMにおける「リサイクル」の役割

物流部門
製商品を納品した帰り便を活用してスーパーマーケット様などから使用済み製品を選別センターへ輸送

全国ネットワークの構築
各地に配置した自社のリサイクル拠点が全国をカバー

リサイクル部門

発泡トレー	透明容器	ペットボトル
白と色・柄で選別	素材で選別	ラベル剥離・素材選別を経て製造工程へ
洗浄、破砕、溶融を経てペレット（原材料）に加工後、製造工場へ	地上資源の活用	洗浄後、揮発留分を除去し食品グレードのペレット・フレーク（原材料）に加工後、製造工程へ

SCM

製造部門
SCMからの指示に従い、リサイクルしたペレットを使用して各種エコ製品を製造

エコトレー®
発泡スチロール製の食品トレー。保温性、断熱性に優れた汎用性のある製品。精肉や魚などによく使われています。



エコ APET®
耐油性、透明性が特長の製品。サラダ容器、冷やし麺容器などに使用されています。



エコ OPET®
耐油性、透明性があり、耐熱性（80℃）と耐寒性もある製品。電子レンジ対応容器の蓋として多用されています。

エフピコのバリューチェーンによる社会的価値創造

～“エフピコらしさ”ができること～

食品トレー・容器は、食の衛生や美味しさを守るだけでなく、環境負荷の低減や人手不足への対応、食品の安定供給の維持など、社会の様々な課題と関わっています。エフピコは、調達・マーケティング・製品開発・製造・販売・物流・リサイクルを一体化したバリューチェーンを通じて、食生活を支えながら資源を循環させ、人と人をつなぐ仕組みも広げてきました。ここでは、その取り組みが生み出す社会的価値を紹介します。



1. 食生活の質の向上

料理をしたり、お弁当や惣菜を選んだりと、毎日の生活の中で食のシーンは様々です。どのような場面でも、美味しい食事は暮らしを彩ります。食品の美味しさを保ち、鮮度を守る食品トレー・容器は、食品ロスを減らす役割も担っています。「もったいない」を減らすことは、日々の食生活の質を高めることにも繋がります。

p.31 美味しさを保つ容器によって 食品の廃棄＝「もったいない」を減らす

p.32 精肉・鮮魚からできたての料理まで 食の美味しさを届ける

2. 環境問題への対応

限りある資源を大切に使い続けるために、リサイクルは欠かせません。使用済みの食品トレー・容器やペットボトルのリサイクルは、消費者の方々やスーパーマーケット様、問屋様といった関わりのある皆様と力を合わせて取り組むことで成り立っています。こうした地球環境へのすべての想いも込めて、エフピコは環境にやさしい製品をつくっています。

p.33 使用済み食品容器を回収し リサイクルして資源を循環させる

p.34 地域のお店が「エコリーダー」になり リサイクルをみんなで行う

3. 人手不足対策

人手不足は喫緊に対策が必要とされる大きな社会的課題のひとつです。食に関わる環境の例では、医療・介護の現場での食事の提供やスーパーマーケットなど食品販売でも、業務に支障をきたさないための工夫や対策が求められています。これらの解決策のひとつとして、エフピコが開発する食品容器が活用されています。

p.35 食品製造現場の様々な機械化に 容器の仕様を合わせる

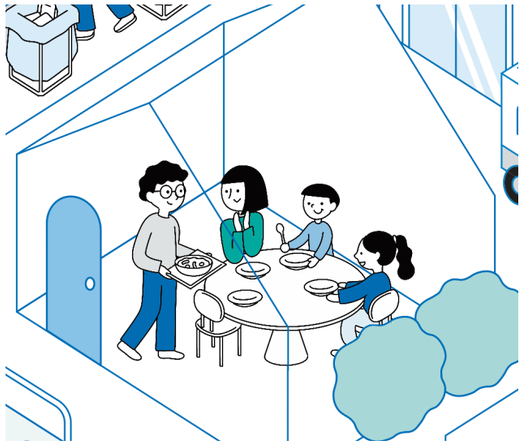
p.36 冷凍対応の容器で毎日の食事を支え 医療・介護の負担を軽減させる

4. 食品の安定供給と人の輪づくり

食品が毎日の食卓に安定して届くことは、当たり前のことのように受け止められていますが、その陰には食品を包んで運ぶ役目を果たす容器の存在があります。予想以上の繁忙期でも非常時でも、決して食品の流通を止めないよう、エフピコは必要なときに確実に容器をお届けする体制の維持に努めています。

p.37 食品販売の当たり前 「食べ物を毎日届ける」ために体制と備えを整える

p.38 食と資源の循環が生む人の輪



美味しさを保つ容器によって食品の廃棄＝「もったいない」を減らす

関連するSCM

調達　マーケティング　製品開発　製造　物流　販売　リサイクル

“エフピコらしさ”ができること　食品の品質を支える容器づくり

　食品トレー・容器は、環境の変化や衝撃などから食品を守り、衛生や鮮度を保つという大きな役割を担っています。発泡スチロール製トレーや透明容器など、用途に応じた食品容器を使うことで、食品の劣化を抑え、より長く美味しさを保つことが可能になります。こうした容器の機能は、「もったいない」と感じる食品ロスを減らすことにも繋がっています。

　エフピコは、様々な食のシーンで使える容器であることを大切にし、あらゆる用途を想定した工夫と開発を重ねてきました。冷凍保存や電子レンジ加熱に対応した耐久性、油分の多い料理にも適した素材設計、持ち運びやすさや扱いやすさへの配慮などを備えた、暮らしのなかの「使う場面」に寄り添った容器づくりを進めています。食品を包み、運び、届けること。その積み重ねが、日常の食を支えています。

食品を大切に扱う発泡スチロール製トレーの特性



　発泡スチロール製トレーは、軽くて丈夫なため持ち運びしやすく、買い物後の移動中でも食品をしっかり守ります。空気を含んだ構造により、少ない材料でつくられる省資源設計でありながら温度変化をやわらげ、水にも強く、水もれが起こりにくいのが特長です。さらに、クッション性によって食品が傷みにくく、衛生的に保たれることで鮮度の維持にも役立ちます。こうした特性は食品ロスの削減にも繋がり、安心して商品を選べる売場づくりを支えています。

進化する発泡トレー



売り場のニーズに応え、ドリップ保持発泡トレーを開発

　ドリップ保持発泡トレーは、食品から出る余分な水分をトレーの構造でしっかり受け止め、汁が広がりにくいことが特長です。傾けても液がこぼれにくく、買い物後の持ち運び時も安心。表面に水分が見えにくいため、売場でも清潔感のある見た目を保ちます。また、吸水マットを使用しないことで資材の削減や作業の効率化にも貢献します。





精肉・鮮魚からできたての料理まで食の美味しさを届ける

関連するSCM

マーケティング　製品開発　製造　販売

“エフピコらしさ”ができること　美味しさで食の楽しみを広げる容器づくり

　エフピコの食品トレー・容器は、食品を販売するスーパーマーケットなどのお客様や、消費者の方々が抱える様々なニーズを起点に開発されています。なかでも「美味しさ」は大切なポイントであり、食卓にどれだけ美味しさを届けられるかはエフピコの腕の見せどころでもあります。

　エフピコは、精肉や鮮魚、揚げ物などの惣菜、コンビニエンスストアのお弁当や病院食、デリバリーで配達される麺類など、新鮮な食材からできたての料理まで、幅広い食品の味や見た目を保つ容器を開発・製造しています。美味しい食事を通じて日々の生活を豊かにしていただくことが、わたしたちの願いです。

美味しさをお届けするエフピコ製品



調理の時まで食材の鮮度を守る

傷つきやすい食材を保護して、運搬、陳列、販売、そして購入後まで鮮度を守ります。また、透明度の高い蓋を使用することにより、新鮮な食材の魅力も伝えています。



できたての美味しさを提供する

電子レンジで温めるだけで、自宅でできたての料理をいただける容器。持ち運ぶ際の汁漏れ防止、蒸気を逃がす工夫や耐熱性など、様々な機能を持っています。



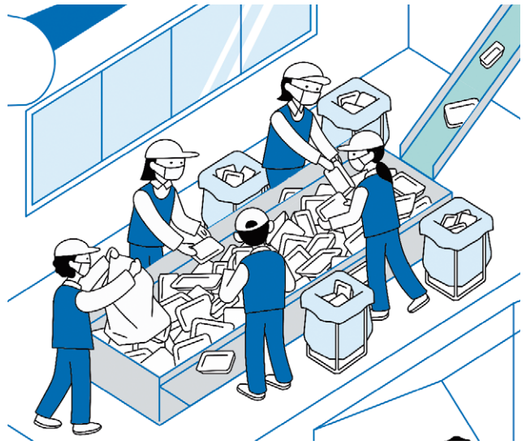
長期保存しながらも美味しさを保つ

冷凍食品に対応する耐寒容器とパッケージ。長期保存が可能なうえに電子レンジで解凍できる耐熱性も持ち合わせ、高い保存性と利便性を兼ね備えています。



持ち帰りやデリバリーでも美味しさを損なわない

スープ、麺、具材を別々にいれ、食べる際に一緒に電子レンジで温められる容器。それぞれの食材の美味しさを損なわず、なおかつ簡単に調理できます。



使用済み食品容器を回収し リサイクルして 資源を循環させる

関連するSCM

調達 物流 販売 リサイクル

“エフピコらしさ”ができること　業界に先駆けて始めた「エフピコ方式リサイクル」

増大し続けるごみ処理が社会的な課題として注目され始めた1980年代、エフピコは企業としていち早くこの問題に向き合い、1990年に独自のリサイクルの仕組みをスタートさせました。スーパーマーケット様の店頭で見かける使用済み食品容器の回収ボックスは、その取り組みの一環。使用済み食品容器を「地上資源」と捉え、生活者の皆様と共にリサイクルの輪を広げています。

「エフピコ方式リサイクル」の特徴は、回収した使用済み食品トレー・透明容器ならびに（他社製品の）ペットボトルを原料に戻し、再び製品として生まれ変わらせる点にあります。こうした資源の循環の仕組みを「トレー to トレー ®」「ボトル to 透明容器 ™」と呼び、世界初の食品容器リサイクルとして展開してきました。今や全国的に定着したこの取り組みにより、廃棄物をリサイクル可能な「地上資源」として活かすことで新たな資源投入を抑え、環境負荷の低減を実現しています。

エフピコ方式のリサイクルから生まれるエコ製品によるCO_2排出量の削減効果

比較　バージン原料の製品と比較したエコ製品のCO_2削減率

エコトレー® 約837※アイテム

CO_2排出削減効果 33%



エコAPET® 約1,923※アイテム　エコOPET® 約300※アイテム

CO_2排出削減効果 30%



※2026年3月末現在

エフピコ製品全体の エコ化率（枚数ベース） 51%（2025年3月期実績） ▶ 52%（2026年3月期実績）



地域のお店が 「エコリーダー」になり リサイクルをみんなで行う

関連するSCM

物流 販売 リサイクル

“エフピコらしさ”ができること　地域とともに。「ストア to ストア®」の水平リサイクル

「ストア to ストア®」は、「エフピコ方式リサイクル」を推進する活動の名称です。店舗で使用・販売された食品トレーや透明容器、ペットボトルを同店舗で回収し、エフピコがそれらを食品トレー・透明容器に再生したうえで、再びその店舗で活用します。「エフピコ方式リサイクル」をさらに発展させるため、スーパーマーケット様が地域の循環の起点となって日常的なリサイクル行動を促し、食品を販売する店舗と購入する消費者の双方の意識向上を目指しています。

その成果として、協働いただいている店舗での回収量は年々増加しており、エフピコ製品におけるエコ化率も前年度の51%から今年度は約52%へと拡大しました。現在、この取り組みに賛同するスーパーマーケット様は145社、約5,440店舗（2026年6月1日時点）にまで広がっています。今後も全国の小売企業様と協働し、売り場と連携した「ストア to ストア®」による使用済み製品の回収とエコ製品の利用拡大を進めていきます。

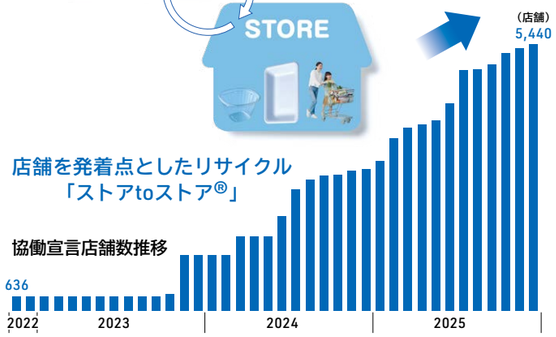
「ストア to ストア®」拡大の効果



エコストア協働宣言 145社 5,440店舗 ※2026年6月1日時点

店舗を発着点としたリサイクル 「ストアtoストア®」

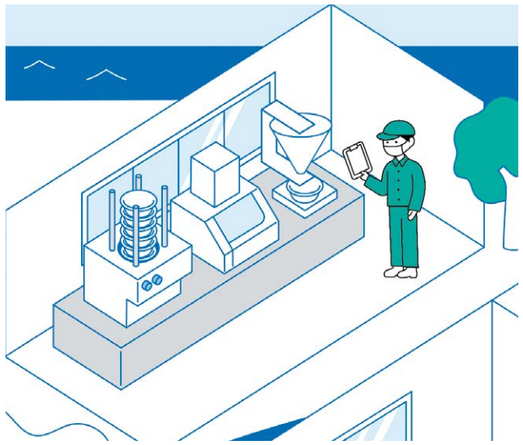
協働宣言店舗数推移



エコ原料調達増加
（容器回収重量 2025年3月期 1.1万トン→2026年3月期 1.18万トン）

エコ製品の採用拡大
（2025年3月期 913億円→2026年3月期 970億円）

CO_2排出量削減に貢献
（2025年3月期 20.9万トン→2026年3月期 21.1万トン）



食品製造現場の様々な機械化に容器の仕様を合わせる

関連するSCM

マーケティング　製品開発　製造



冷凍対応の容器で毎日の食事を支え医療・介護の負担を軽減させる

関連するSCM

マーケティング　製品開発　製造

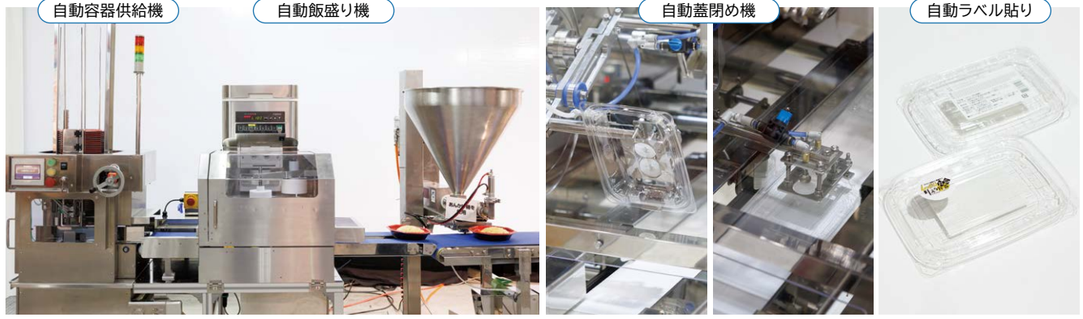
“エフピコらしさ”ができること　食品製造の機械化を促進する、他社様との協働開発

現在、ほとんどのスーパーマーケット様ではセルフレジが導入され、販売フロアの人手不足への対応が進んでいます。さらに、販売する食品をつくるバックヤードや仕入れ先の製造工場でも機械化が進んでいます。こうした設備には、各工程で使用する機械に適合する容器が必要です。そこでエフピコは、機械メーカー様と連携し、必要な条件を満たす仕様の容器を製造しています。

工場の生産性向上を目的とした機械化では、ラインの一部で不具合が起きるだけで、製造全体に大きな影響を及ぼします。そのため、容器供給や蓋閉めなど、各工程での高度な連携が欠かせません。不具合のない確実な機械導入から安定稼働へ向けて、エフピコは様々な食品製造・加工機械メーカー様との協働を行っています（44ページ参照）。

食品製造における自動化・省力化に向けた容器開発の例

容器供給 ▶ 盛りつけ ▶ 蓋閉め・トップシール ▶ ラベル貼り ▶ コンテナ収納・輸送



自動容器供給機や自動飯盛り機に適応する多種多様なサイズと形状の容器を随時開発し省人化に対応

自動蓋閉め機でもカチッとしたかん合が可能。自動ラベル貼り機にも対応する容器

“エフピコらしさ”ができること　医療・介護の負担も軽減。便利な食を実現する耐寒容器づくり

冷凍食品の活用により、調理工程の効率化や長時間のつくり置きが可能となり、人手が足りない状況でも安定した食事提供を無理なく続けられるようになります。耐寒容器は、食べる人にとっては安心できる食事を、提供する側にとっては持続可能な運営を可能にします。

介護施設や病院などでは、人手不足によって365日・1日3食を施設内調理で安定して提供し続けることが難しくなるなか、冷凍食品の活用が広がっています。こうした現場でも有効活用できるエフピコが開発した冷凍用容器は、食事を提供する方々の負担軽減に寄与しています。冷凍しても割れにくい容器は、食事の品質を保ちながら、配膳やかたづけなど日常業務のしやすさを高めます。エフピコは冷凍市場の拡大に応じた技術開発を進めることで、食事提供の負担軽減をサポートし、医療・介護の現場における課題に対するソリューションを提供しています。

エフピコ独自の耐寒容器における2つの技術

課題　冷凍によって容器が硬化・脆化し、落下時に割れることを防ぎたい。

新素材「耐寒 PPiP-タルク®」を開発

POINT 1　耐寒PPと比較して、**プラスチック使用量を25%以上削減**

POINT 2　耐寒PPと比較して、**冷凍温度帯で同等の強度**

POINT 3　**12**シリーズ、**33**アイテムラインナップ



課題　病院や介護施設において、食事の見た目を整え、容器を食器のように自然に見せたい。

真空圧空成形による強度と定位置成形技術を確立

POINT 1　華やかなデザイン

POINT 2　耐寒・耐熱・強度

POINT 3　ちょうど良いサイズバリエーション



安心して使えて、見た目もきれい。その当たり前を、エフピコの技術が支えています。



食品販売の当たり前「食べ物を毎日届ける」ために体制と備えを整える

関連するSCM

製造　物流





生産工場と物流施設のペアリング：
生産工場と物流のハブセンターを繋ぐ通路により、タイムリーで効率的な製商品の出荷が可能に

“エフピコらしさ”ができること　食品のサプライチェーンを支える自社物流

食品容器は、食品を守り、運んで陳列するためのツールであり、食品のサプライチェーンには欠かせません。食品容器を「必要なときに確実にお届けする」ため、エフピコでは自社物流システムを展開しています。

エフピコ物流（株）と（株）アイ・ロジックという2つのグループ会社で在庫、出荷、配送をマネージメントし製造した製品を保管・管理してお届けするという一貫した物流を行っています。このように、物流をバリューチェーンの一環として設計・運用することにより、スーパーマーケットなどのお客様での食品販売に必要な容器をタイムリーかつ確実に提供することができるのです。

自社物流が生み出す価値



需要予測から生産、物流までを一元管理し、生産工場と物流施設を同敷地内に配置することで、**高精度な在庫管理と配送を実現し、欠品をほぼゼロ**に抑制。



日々の暮らしに必要な食品の流通には、高頻度の配送が必要。**スーパーマーケットなどのお客様の要望に応えることのできる配送頻度を実践**。

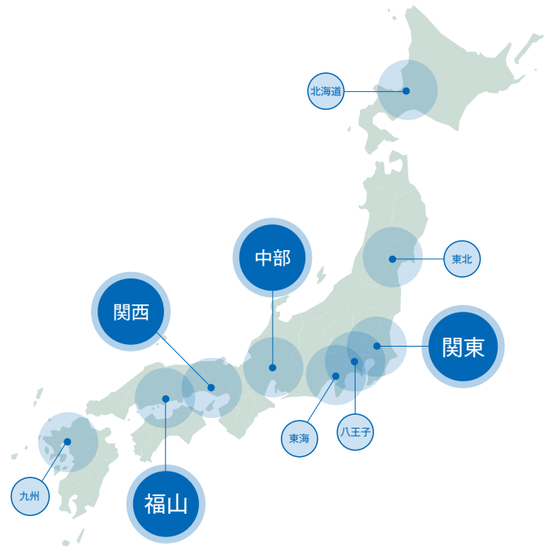


リサイクルを行うエフピコにとって、使用済み容器の回収は必須。納品後に復路で回収を行うことで、**製品リサイクルの循環をスムーズに実施**。

“エフピコらしさ”ができること　安定供給を実現する全国ネットワークの構築

エフピコは、全国に21カ所の生産工場と9カ所の物流施設とをペアリングするかたちで配置しています。巨大商圏のある関東、中部、関西の3エリア、および福山には、リサイクル施設も併設した大型拠点があります。また、全配送センターの倉庫に約340万ケースの製品保管能力を備えているほか、各配送センターから効率的な配送が可能とされている100キロメートル圏内で日本の人口の約85%をカバーする物流ネットワークを構築しており、製商品を安定的かつタイムリーにお届けする体制を整えています。

さらに物流施設では、災害などの非常時にも電気を72時間供給できる非常用電源装置を備えており、製商品の配送を途切れさせないリスク管理も行っています。



食と資源の循環が生む人の輪

家族のだんらんや人が集まる場での食事と語らいなど、食卓は人と人を繋ぎます。また、エフピコが実践するリサイクルも消費者の方々と店舗を結びます。スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどのお客様に食品が毎日届き、店頭で使用済み食品トレー・容器の回収が行われる当たり前の先に、人の輪が広がり、心豊かな社会が育まれていくことを、エフピコは願っています。



SPECIAL CONTENT

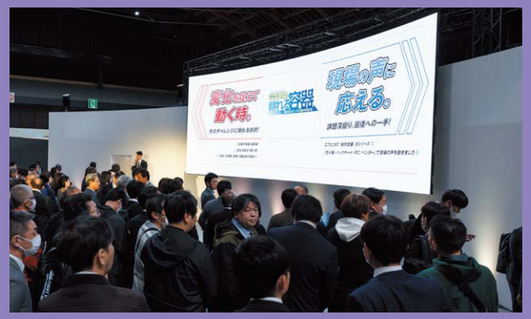
＜特集＞

エフピコフェア

～社会的価値のショーケース～

エフピコのすべての製品・サービスを お客様に披露する、 年に一度の一大イベント

エフピコはBtoBの会社です。製造・販売している食品容器は消費者の方々の毎日の食生活のお役に立てられていても、直接コミュニケーションをとる機会はほとんどありません。そこに介在しているのが、お客様であるスーパーマーケット、コンビニエンスストア、惣菜などをつくって販売する企業の皆様。エフピコが提供する社会的価値をいち早く丁寧にお伝えすることで、お客様にそのメリットを享受していただくだけでなく、エフピコと社会の架け橋になっていただいています。





「エフピコフェア」は毎年春に開催するエフピコグループのプライベートショー。例年、1万人を大きく超える食品流通関係者や小売業の経営者などの皆様にご来場いただいています。今年は有明GYM-EXにて開催されました。

エフピコフェアとは

当時の社名にちなみ、1976年に「パールフェア」として始まった現在の「エフピコフェア」は、単なるメーカーの新製品紹介にとどまらず、「お客様の課題解決」を具現化する場として進化を遂げてきました。「新製品の紹介」、「流通トレンドの発信」、「お店で売れている商品紹介」を経て、売り場を丸ごと再現する独自のスタイルへと変化しています。食品流通業界へタイムリーな情報と課題の改善提案を発信する、エフピコと社会をつなぐ重要なプラットフォームです。



“エフピコが開発した
製品を通じて
お客様の売上拡大に
つなげる。”

PROFILE

専務取締役営業本部本部長
高橋 正伸

1982年の入社以来、営業部門一筋で勤務。2005年に取締役、2014年には子会社であるエフピコインターパック株式会社代表取締役に就任。2018年にエフピコに復帰し、常務取締役第一営業本部本部長を務めた後、2019年より現任。

エフピコフェアの最大の目的は、エフピコの製品を取り扱っていただくことを通じて、お客様の売上アップに貢献すること。この考え方が根底にあります。そのため、時代の変化に応じて、お客様に共通する悩みや課題解決の糸口を鑑みてフェアのメインテーマを決めています。過去3年のテーマ例でいえば「支える容器」、「叶える容器」、「頼れる容器」としています。「売り場、商品つくりの提案」、「具体的な工夫や成功した知恵を提案」、「人手不足を背景とした自動化・機械化の提案」と、お客様に価値ある情報をお届けしています。

私自身、最も印象深く、フェア成功の手ごたえを感じた提案は、今の「FLBトレー」の原型となった「システムトレー」です。それまでは、サイズがバラバラだったトレーの横幅を統一し、奥行きを広げていくトレーを提案しました。これにより、縦型棚割りが可能となって売り場がすっきりと整理され、お店の方にとっても、買い物をするお客様にとっても「分かりやすく買いやすい売り場」に劇的に変わりました。近年では人手不足に対応するPC（プロセスセンター）化や冷凍食品ビジネスの拡大など、常に時代ごとの課題に寄り添う提案を続けています。

また、現在のフェアが形づくられるようになった過程における転換点が3つありました。1つ目は、中食のトレンドを発信し大きな注目を集める契機となった「イーチーズオーナー講演」、2つ目が外部の専門家と協働し現在のリアルな売り場再現スタイルの原点となった「3Daysスーパーマーケット」、そして3つ目は話題の企業様と最先端の売り場コーナーを作り市場に強烈なインパクトを残した「エモマー（エモーショナルマーケット）」です。常に時代のトレンドやニーズに注視しながらフェアは形を変えていき、お客様への改善提案を届け続けています。

こうしたエフピコフェアを通じたご提案は、お客様のビジネスを支えるだけではなく、消費者の利便性向上や、社会的課題の総合的な解決策の提供にもつながっています。『ストアtoストア』によるリサイクル活動の推進、それに伴う障がい者雇用の創出へと、課題を掘り起こす社員一人ひとりの「現場力」が、結果として大きな社会的価値の創造につながっています。変化し続ける社会環境のなかで、食品流通業界の課題は変わっていきますが、多様化する食のニーズに寄り添いながら、エフピコフェアはこれからもお客様と社会をつなぐ場でありたいと考えています。

来場していただいたお客様に「エフピコフェアに来てよかった」と喜んでいただける様にこれからも活動してまいります。

エフピコフェアKEY POINTS















スーパーマーケットの売り場再現と多彩な提案展示

スーパーマーケットの売り場を再現した展示では、精肉・鮮魚・惣菜・米飯・スイーツなど各分野ごとの提案を展開。実際の購買シーンを想定した売り場の中で、容器と売り場づくりの可能性を体感いただけます。注目製品については、開発や営業担当の社員が直接プレゼンテーションを行い、製品の特徴だけでなく、売り場での活かし方まで具体的に提案。また、会場内は撮影可能とし、来場者が気づきやアイデアを持ち帰れる環境を整えています。さらに、障がい者雇用などエフピコの取り組みを紹介するブースも設置し、ものづくりだけでなく、社会との繋がりや企業としてのあり方にも触れていただける展示空間となっています。



最新トレンド情報の提供

冷凍・介護・医療分野など、多様化する市場ニーズに対応した提案を展開。社会や売り場の変化を見据えた最新情報を発信しています。



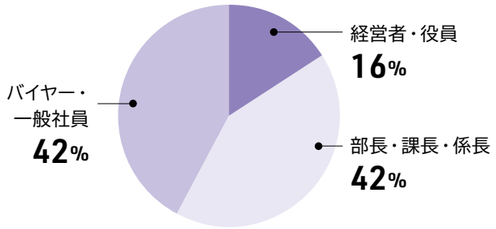
「チームX」による他社様とのコラボレーション提案

他社様との協働による売り場提案を展開。業界の枠を超えた共創により、新たな価値創出に繋げています。



エフピコフェア開催概要

来場者役職別内訳



トップ層から現場の方々まで
幅広くご来場いただきました

来場者	約13,000名
提案ブース	107ブース：723尺
パック済み製品展示	約6,500点
食品提供協力企業	65社

来場者の声

食品メーカー / 男性 / 60代 / 役員

得意先の課題解決に向けた提案だけでなく社会課題の解決にも繋がる取り組みを提案していただいて大変参考になった。一企業がこれだけの多くの来客を出来るのは流石エフピコさんだけあると改めて感心させられました。プラ削減の取組などさりげなく提案されていましたがすごい事にチャレンジされ商品化まで実現されている点は素晴らしい。

食品商社 / 女性 / 20代 / 一般社員・職員

普段あまり気にしたことのないスーパーでの買い物におけるパックの細部へのこだわりや、SDGsのための取り組みによるリサイクル活動など、細かな努力がCO_2削減や、人員不足を解消することに繋がってるいるのを学び、面白かったです。

小売・流通 / 女性 / 30代 / バイヤー

今の原料事情等を反映した内容が多く、見応えがありました。ちょっとした工夫で作業面の大幅な改良になることもあり、今後に活かせる展示が多かったです。

食品商社 / 女性 / 20代 / 一般社員・職員

日頃食品の開発に携わっていますが、包装や容器の機能に関してはあまり深く考えたことがありませんでした。しかし、今回の展示会でその重要性に気づくことが出来ました。容器一つで食品の見栄えが大きく変わり、それが購入の判断につながるため、中身と同じくらい重視しなければならないと実感しました。会場内に関しては従来品との比較や改良の理由などポイントがわかりやすく展示されていてとても見やすいと感じました。

小売・流通 / 男性 / 40代 / 係長・主任

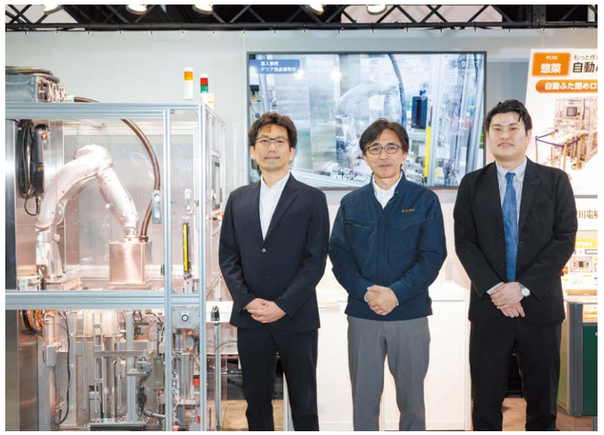
自分は青果出身ですので入り口でしていた、ミニトマト自動計量が印象的でした。ミニトマトに限らず、他のアイテムや今後のトレーの広がりにも期待しながら拝見させて頂きました。また、人手不足解消のコンテナ売り場も、弊社の中でも比較的売上の低い小型店には導入価値有りと感じ、非常に考えさせられる案件で勉強させて頂きました。

出展者の声

コ・クリエーション型営業の取り組みとして展開されている「チームX」。エフピコと食品メーカーなど複数の企業様が連携し、商品開発から売り方提案までを一体で行うこの取り組みについて、出展者の声をご紹介します。







食品メーカー × 機械メーカー × エフピコ

人手不足を背景に、食品工場での作業をより効率化するニーズが高まるなか、容器に蓋を自動で閉める装置と、エフピコ様が開発した専用容器を組み合わせた取り組みが進められてきました。約3年をかけて実用化に至り、プラスチック使用量を抑えながら、機械でも安定して使える仕組みを実現しています。今回の出展は、こうした取り組みによって提案の幅が広がり、より多くの現場に紹介できるようになったことがきっかけです。フェアでは、実際の使い方をイメージしながら体感していただける点に手応えがあり、協働による取り組みの可能性を改めて実感する機会となりました。

機械メーカー × エフピコ

病院や介護施設では、人手不足の影響もあり、冷凍やチルドの食事を温めて提供するスタイルが広がっています。こうしたなか、温かいおかずと冷たい付け合わせを同時に保てる配膳システムが開発されました。前日にセットするだけで、自動で冷蔵・加熱が行われ、すぐに配膳できるのが特長です。エフピコ様の耐寒PPiP-タルク®を使用した専用容器と組み合わせることで、食事の温度を保ちながら、現場の負担を軽減できる新しい仕組みとなっています。フェアでは、冷凍・チルドのニーズの広がりを感じる来場者の声も多く、これからの可能性を感じています。



SUSTAINABILITY

サステナビリティ

環境における取り組み

サステナビリティ基本方針 …… 47
サステナビリティ推進体制 …… 47
環境方針 …… 47
エフピコ・エコアクション 2.0 …… 48
エフピコ・エコアクション 2.0 指標と目標 …… 49
TCFD 提言への賛同について …… 51
環境関連団体への参画 …… 51
エフピコ方式リサイクル …… 53
「ストア to ストア ®」の取り組み …… 53
リサイクル工場見学・オンライン工場見学 …… 55
出前授業・講演などによる情報発信 …… 56

社会における取り組み

インクルージョンの推進 …… 57
健康経営 …… 59
人材育成方針 …… 61
社員のエンゲージメント向上 …… 63
コミュニティへの参画 …… 66
エフピコ環境基金 …… 67

ガバナンスにおける取り組み

基本的な考え方 …… 69
ガバナンス体制 …… 69
コンプライアンス …… 70
リスクマネジメント …… 70
株主との関わり …… 70

SDGsのその先へ。
エフピコのサステナブルな
“ウェルビーイング”への進化

現在世界的に、経済的発展や環境保全を実現する持続可能な開発の先にある、人間の幸福に注目が向けられています。“ウェルビーイング”と表現されるこの発想・コンセプトを、エフピコでは“いい会社”という言葉で言い表してきました。働きやすい職場、やりがいのある仕事、そして事業成果が人々の幸福に寄与する社会的価値を生み出すこと。物質的だけではない心の豊かさにも注目し、エフピコは進化を続けます。



エフピコは公益財団法人日本環境協会主催の「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に毎年出展し、食品容器のリサイクルをテーマに情報発信を行っています。

環境における取り組み



エフピコは、リサイクルの推進やCO_2削減、資源循環型社会の実現に向けた取り組みを通じて、持続可能な未来の創造に貢献しています。

サステナビリティ基本方針

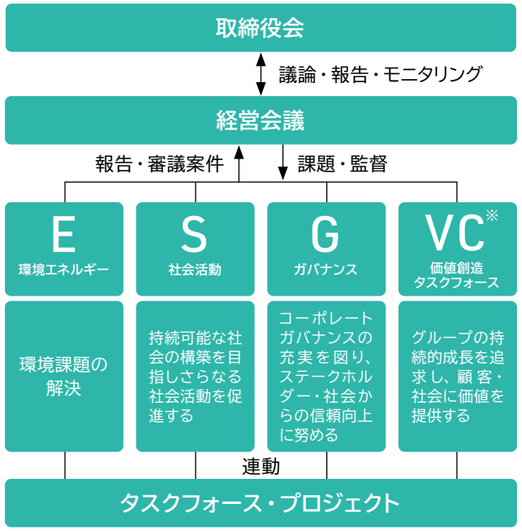
原料の調達、製品開発、製造、販売、物流、リサイクル。エフピコグループは、バリューチェーン全体を循環させながら、多様なステークホルダーの皆様と価値を共創しています。その循環型バリューチェーンの取り組みを通じて、持続可能な未来の創造に貢献します。

サステナビリティ推進体制

エフピコグループのマテリアリティを基に取締役会で定められた、サステナビリティ推進の取り組みテーマ・課題は、経営会議において統括され、執行部門である各本部・事業部に指示・監督がなされます。

経営会議で特定された課題の解決に向けた取り組みは、本部・事業部など各執行部門が、優先順位を決めて、有機的に連動し実行しており、その進捗については、各執行部門より経営会議に適時報告され、監督・指導を受けています。

また、各執行部門は「ESG＋VC（当社の強みであるリサイクルや障がい者雇用などが生み出すバリューチェーン）」の4つの観点から取り組むテーマを定め、経営資源の適切な配分のもと事業戦略への反映について議論を深めています。



※VC＝バリューチェーン

環境方針

基本理念

当社は地球環境の保全及び保護が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

1. CO_2削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化を徹底すると共に、一般家庭から排出される使用済み食品容器を食品容器に再生利用する「エフピコ方式リサイクル」を積極的に拡大し推進する。
2. 当社に対する法的要求事項等を順守すると共に、ステークホルダーのニーズや期待を理解し、運用に際しては自主基準を定め、汚染の予防を行う。
3. 環境に影響を与える活動・製品・サービスを考慮した環境目標を定め、管理計画を立案、推進する環境マネジメントシステムを構築すると共に、内部監査やトップマネジメントによる見直しを通じて評価し、継続的改善を行う。
4. 効率的な水の利用により、水資源の使用量削減を推進する。
5. 化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する。
6. 生物多様性に配慮する取り組みを推進し環境保全を行う。
7. 本指針を従業員をはじめとするステークホルダーに広く公開し、自ら進んで環境問題に取り組む人材を育成する。
8. ステークホルダーとの対話に基づいた取り組みを行うとともに、適切な情報開示を積極的に行う。

エフピコ・エコアクション2.0

食品トレーや容器など多くのプラスチックを取り扱うエフピコグループにとって、「脱プラスチック」の世界的な流れは重要な課題です。一方で、プラスチックは機能性や耐久性、経済性に優れ、私たちの生活や食品流通を支える不可欠な素材でもあります。エフピコでは環境負荷の本質は素材そのものではなくその使い方にあると捉え、使用済み製品の回収・分別・再生を通じて資源を循環させる仕組みを構築し、店頭回収から再び食品容器へと生まれ変わらせる「水平リサイクル」を推進してきました。

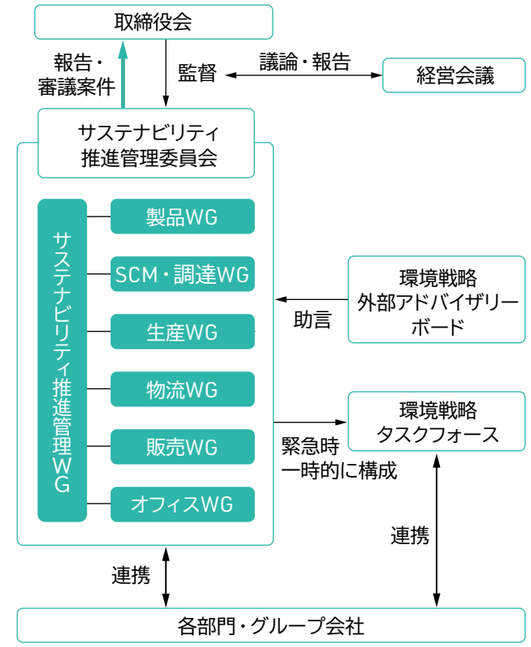
こうした取り組みをさらに進化させるのが「エフピコ・エコアクション2.0」です。従来の取り組みを基盤としながら、リサイクル技術の進化や回収ネットワークの拡大、環境配慮型製品の開発を通じて、資源循環の質と量の両面での向上を図っています。

今後も循環型バリューチェーンを強化し、「脱プラスチック」時代における持続可能な資源利用を追求することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

■ 推進体制

エフピコグループでは、気候変動をはじめとする環境課題解決に向け、環境戦略である「エフピコエコアクション2.0（FPEA2.0）」を掲げ、取り組みを進め、以下のプロセスを通じて取締役会による監督体制を構築しています。

1. 部門横断組織である「サステナビリティ推進管理委員会」が、グループ全体の環境戦略やTCFD推進（IFARS-S2対応）について議論し、方針・戦略を立案します。「サステナビリティ推進管理委員会」の運営にあたっては、社長直轄の環境に関する専門組織であるサステナビリティ推進室が事務局を担います。
2. グループ全体の環境戦略のもと、製品、SCM・調達、生産、物流、販売、オフィスの各部門に設置したWG（ワーキンググループ）が自主目標を立て、気候関連課題をはじめとする環境課題の解決に向けた取り組みを実施します。
3. 各WGは、四半期に一度、取り組みの進捗状況を「サステナビリティ推進管理委員会」に報告します。
4. 「サステナビリティ推進管理委員会」は、方針・戦略及び取り組みの進捗状況について、毎年取締役会へ報告します。
5. 取締役会は「サステナビリティ推進管理委員会」からの報告を受け、様々な視点・知見をふまえモニタリングを行います。



■ 環境マネジメント推進体制

取締役会の監督のもと、経営会議およびサステナビリティ推進管理委員会が戦略を統括し、サステナビリティ推進管理WGが全体方針を整理。製品、SCM・調達、生産、物流、販売、オフィスの各ワーキンググループが具体施策を実行し、環境戦略外部アドバイザリーおよびタスクフォースによる助言と機動的対応を組み合わせ、全社一体で環境経営を推進しています。

統括・監督	戦略立案・推進	実行体制	外部知見・機動対応
取締役会および経営会議が環境戦略の方向性を統括・監督	サステナビリティ推進管理委員会および推進管理WGが全社戦略とTCFD対応を推進	SCM・調達、生産、物流、販売、オフィスの各ワーキンググループが施策を実行	外部アドバイザリーボードによる助言とタスクフォースによる迅速な対応

エフピコ・エコアクション2.0 指標と目標

エフピコグループは業界のリーディングカンパニーとして、エフピコ方式リサイクル「トレーtoトレー®」、「ボトルto透明容器™」を柱にした事業活動により、循環型社会の実現による持続可能な社会の構築を目指しています。

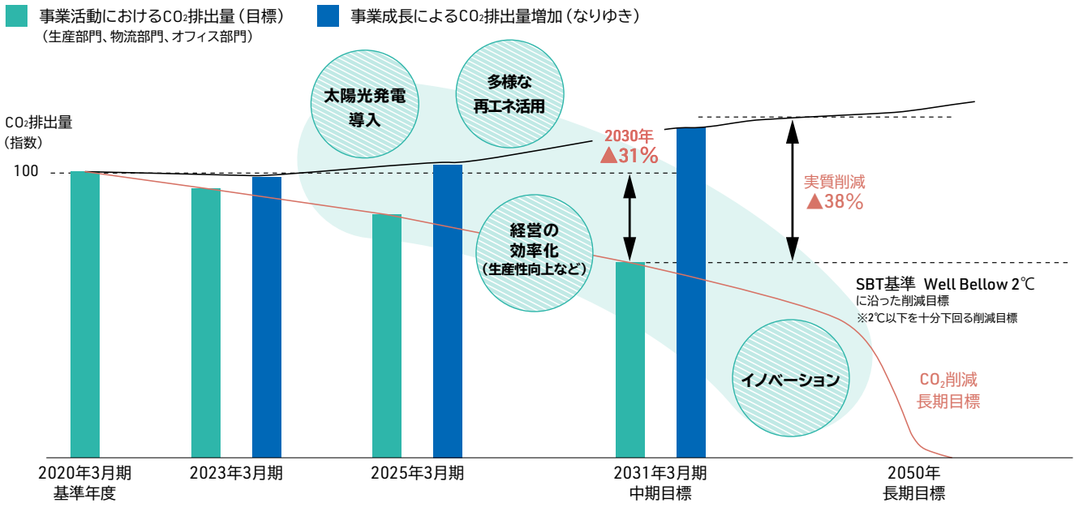
エフピコグループ　中・長期環境目標

Ⅰ 事業活動全体におけるCO_2排出量（Scope1.2）を2031年3月期までに2020年3月期比31%削減します。

Ⅱ エコ製品（エコトレー、エコAPET、エコOPET）によるCO_2排出削減量を2031年3月期までに27.2万tに増やします。（2020年3月期比170%増）

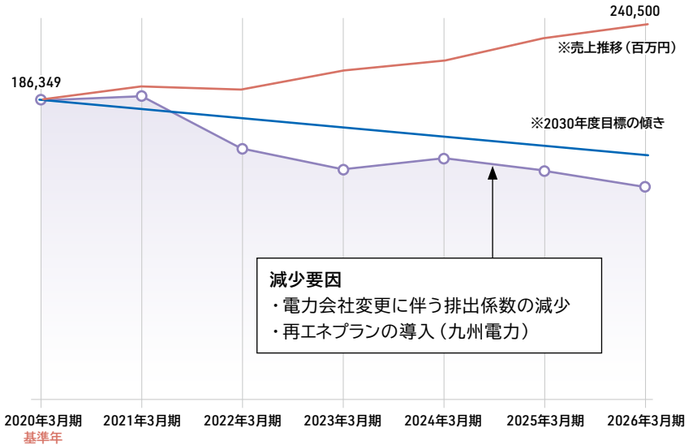
Ⅲ 事業活動全体におけるCO_2排出量（Scope1.2）の実質ゼロを2050年度までに目指します。

温室効果ガス（Scope1.2）削減ロードマップ



エフピコグループのCO₂排出量（Scope1,2）の現状分析

（2026年3月期）



（暫定値）

Scope 1（ex. 重油,ガソリン,経由など）

6,680 t-CO_2

（前年7,240 t-CO_2）

Scope 2（電力）

170,385 t-CO_2

（前年175,018 t-CO_2）

部門内訳（Scope 2）

部門	CO_2排出量	割合
生産	161,453	94.8%
物流	7,191	4.2%
オフィス	1,741	1.0%
合計	170,385	100%

Scope 1+2合計

177,065 t-CO_2

（前年182,258 t-CO_2）

エコ製品によるCO_2削減貢献量（2026年3月期）

エフピコのエコ製品は、バージン原料を使用した場合と比較して、PSP容器で約33%、APET・OPET製品で約30%のCO_2排出量削減を実現しています。これらの製造・販売を通じた年間のCO_2削減貢献量は21.1万トンを超え、当社グループの事業活動に伴うScope1およびScope2のCO_2排出量（17.7万トン（暫定値））を上回る水準となっています。エフピコは、環境配慮型製品の提供を通じて、自社の排出削減にとどまらず、社会全体のCO_2排出量削減に貢献しています。

エコ製品の製造・販売で削減できるCO₂排出量

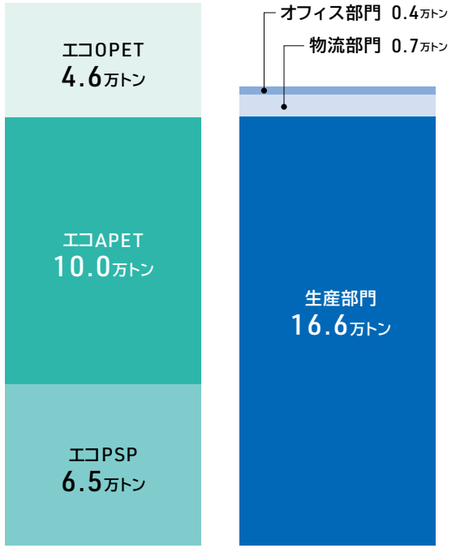
2025年3月期
20.9万トン
▼
2026年3月期
↑ 21.1万トン

CO_2削減量の増加要因

① 太陽光発電による
再生エネルギー導入
エコPSP製品のCO_2削減量
33%

② エコ製品の販売が好調
103.3%
（2026年3月期前年比 枚数）

エコ製品の販売拡大



グループCO₂排出量

2025年3月期
18.2万トン
▼
2026年3月期
↓ 17.7万トン

CO_2排出量の減少要因

・再生エネルギーの活用
・省エネルギーの推進



2025年11月5日
中部第一工場
太陽光発電稼働開始

各WGにおけるScope3削減目標

推進体制の各WG（P48参照）において、エフピコグループ中・長期環境目標の達成に向けた取り組みの策定を準備しています。

製品WG

1.5%↓
2031年3月期までに製品1枚当たりの重量を2021年3月期比で1.5%削減

SCM・調達WG

30%↑
PSP製品のエコ化率を80%（2036年3月期）へ高めるために、調達するポリスチレン素材の再生材割合を30%高める

生産WG

85%↓
生産活動における製品一枚あたりのCO_2原単位を2008年3月期比で85%に削減

物流WG

2031年3月期
20%↓
2036年3月期
24%↓
2020年3月期比
物流活動における1ケース当たりのCO_2排出量（kg-CO_2/ケース）を削減

販売WG

100%↑
APET製品に占めるエコAPETの割合を100%に高め、維持する

60%↑
PSP汎用容器に占めるエコトレー割合を60%に高める

オフィスWG

15%↓
営業車両のCO_2削減を15%削減する

7%↓
床面積当たりの電力使用量を7%削減

10%↓
人数あたりの廃棄物排出量を10%削減

5%↓
紙使用量を5%削減

60%↑
グリーン購入率を60%に向上

TCFD提言への賛同について

詳細はこちら

エフピコグループは2022年3月、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明しました。「高品質で環境に配慮した製品を、競争力のある価格で、必要なときに確実にお届けする」という考えのもと、原料の調達から製造、物流、リサイクルまで、事業のすべての工程で環境負荷の低減に取り組んでいます。さらに、国内株式市場において順次段階的に完全義務化される「SSBJ（サステナビリティ基準委員会）基準」に基づく情報開示の準備をしています。

環境関連団体への参画

エフピコグループは2011年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、環境への先進的な取り組みを続けてきました。2024年6月にこの約束を更新してエコファースト企業制度認定を受けました。より一層の環境対策に向けた姿勢を表明しています。

エコ・ファーストの約束

循環経済パートナーシップ（J4CE）は、循環経済への理解促進と取り組み強化を目的に、環境省・経産省・経団連が2021年に設立した官民連携の枠組みです。エフピコ方式リサイクルは、このJ4CEがまとめた特に注目度の高い29件の「注目事例集」に掲載されています。

循環経済パートナーシップ

エフピコは2019年に設立された「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）」に設立当初から幹事会社として参加しています。技術部会の副部会長として、リサイクル技術や新素材の開発などに取り組んでいます。

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス

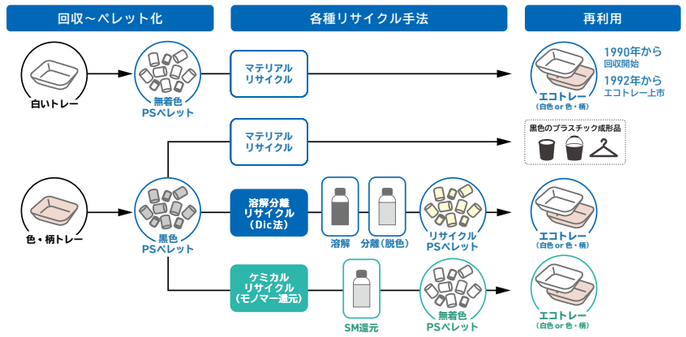
エフピコは、2030年までに日本の陸域・海域の30%を保全する「30by30目標」に賛同し、環境省が推進する「30by30アライアンス」に参加しています。「エフピコ環境基金」を通じて川や海、里山、森林の保全・研究・環境教育を支援しています。

30by30 アライアンス

ポリスチレンの完全循環型リサイクル　溶解分離リサイクルによるエコPSPの拡大

エフピコでは、回収トレーの約半分を占めるカラートレーの一部をトレー用途として再生する取り組みを進めています。DIC株式会社様と連携した「溶解分離リサイクル技術（DIC法）」によるプラントは、2025年9月より稼働を開始しました。さらにこの溶解分離に加えて、ケミカルリサイクル（モノマー還元）も研究を続けており、ポリスチレンの完全循環型リサイクルの実現を目指します。

■ ポリスチレンの完全循環型リサイクルの各種リサイクル手法



現場担当者が語る

ステークホルダーの皆様と共に広げるサステナビリティの輪



サステナビリティ推進室
サステナビリティ企画推進課
チーフマネージャー
若林 大介

エフピコの環境における取り組みは、36年前にスタートした使用済みトレーのリサイクルから現在に至るまで、社会情勢の変化に歩調を合わせる形で進化してきました。

リサイクル工場が稼働を始めた当初より工場見学を積極的に受け入れ、後には地域の小学校などに出向いての出前授業も実施するようになりました。容器包装リサイクル法、家電リサイクル法など循環型社会形成のための法整備が行われるようになった1990年代のことです。その後2000年代に入り、温暖化対策、資源循環、環境保全に向けた地域づくりや人づくりがフォーカスされるに従って、TCFD提言への賛同表明や「エフピコ環境基金」の立ち上げもありました。

こうした取り組みは、サステナビリティ推進室と他部門やグループ会社の社員だけではなく、外部の環境関連機関や民間団体、そして個人ボランティアの方々との協働で行っています。本レポートで繰り返し取り上げている「ストアtoストア®」の取り組みは、販売部門と各スーパーマーケット様との密接な協力関係なしには実現しません。エフピコ方式リサイクルの現状をお話しする機会を与えてくださる大学や自治体も、私たちと同じ志を持つ仲間だと感じています。昨年の大阪・関西万博で関西パビリオンに参加させていただけたのも、環境関連のイベントを通じてかねてからお付き合いのある京都府様とのご縁からでした。また、エフピコ環境基金に参画していただいている助成先団体の皆様との関係も、当社にとって貴重な財産となっています。

サステナビリティ活動の目標は、持続可能な社会の発展です。社会の中で事業活動を行っているエフピコも、様々なステークホルダーの方々による理解と協力があって初めて、社会の中で環境における取り組みを発展させることができます。エフピコ方式リサイクルなどエフピコ発の情報提供を行うこと、また社会の中にあるサステナビリティの輪に積極的に参画することが私たちの部署の役目だと思っています。

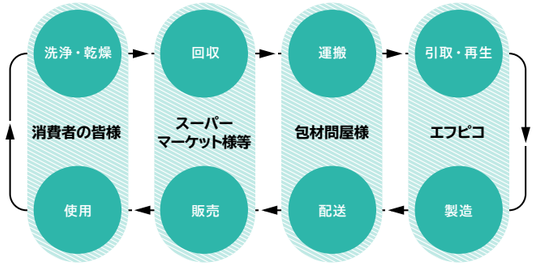
エフピコでは今期よりサステナビリティ基本方針を新たに定めるとともに、サステナビリティ推進体制を整備しています（P.47参照）。エフピコ方式リサイクルによる環境対応製品の製造・販売、そしてその成果としてのCO_2削減はもちろんのこと、今後はエフピコが実践する「循環型バリューチェーンの取り組みを通じて持続可能な未来の創造に貢献する」という、より包括的なサステナビリティの実現を目指していきます。



大阪・関西万博の関西パビリオン京都ブース（左）と文部科学省・経済産業省の後援で開催された職業体験EXPO2025（右）に参加したときの様子

エフピコ方式リサイクル

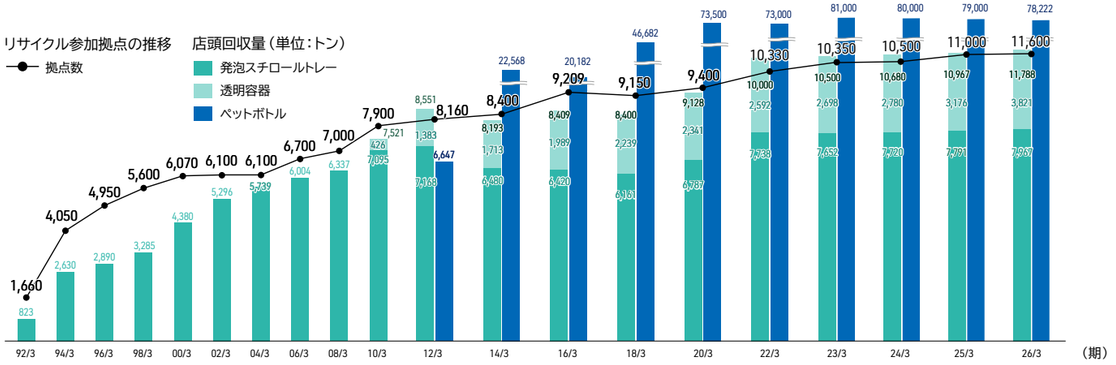
エフピコは1990年の開始以来、消費者の皆様、スーパーマーケット様、包材問屋様、そしてエフピコの4者一体となった「エフピコ方式リサイクル」を拡大してきました。6店舗から始まった使用済み食品トレーの自主的回収は、現在では11,600拠点へと広がり、透明容器やペットボトルの再生へと発展しています。自社で回収した資源を原料に戻し、再び食品容器として生まれ変わらせる「トレーtoトレー®」「ボトルto透明容器™」は、エフピコが世界に先駆けて取り組み、実現した循環型リサイクルです。



「ストアtoストア®」の取り組み

下記のグラフにある通り使用済み製品の回収拠点は11,600カ所ありますが、近年は回収量が伸び悩んでいる状況にありました。そこでお店を発着点としたリサイクル、つまりお店で使用した食品容器をそのお店で回収し、リサイクルした上で再びそのお店で使用するという考え方を普及し、使用済み容器を積極的に回収していただくことを目指し、「ストアtoストア®」と名付けたコンセプトの提唱を2022年より始めました。このコンセプトに賛同していただき、エフピコと「エコストア協働宣言」を交わされた企業・店舗様は2026年6月時点で145社・5,440店舗以上へと広がっており、回収量の増加が見込まれています。

<回収拠点と回収量の推移>



エフピコ方式リサイクルの成果

使用済み容器のリサイクルは、バージン素材の製造に必要な石油（地下資源）を使用せず、“地上資源”である使用済み容器を活用することで、CO_2削減に大きく貢献しています。また、廃棄物処理にかかるコストの削減など、環境面だけでなく社会的な効果も生み出しています。

	発泡トレー		透明容器		ペットボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2026年3月期(2025年度)	7,967t	19億9175万枚	3,821t	3億8210万枚	78,222t	31億2888万本
累計(1990年~2026年3月)	198,296t	495億7400万枚	36,390t	36億3900万枚	777,011t	304億4620万本

※発泡トレー:4g/枚、透明容器:10g/枚、ペットボトル:25g/本で計算（2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算）

2026年3月期（2025年度）に削減したCO_2の量　約21.1万トン

現場担当者が語る

「ストアtoストア®」で広がる、地域連携と資源循環の取り組み



「ストアtoストア®」の取り組みは既に5,400店舗以上へと広がっていますが、さらなるCO_2削減を目指してこの活動を続ける上では、スーパーマーケット様の理解をいただくことが重要であり、弊社との相互の協力関係づくりの強化を目指しています。そのことを踏まえた上で、まずはスーパーマーケット様各社の担当者の方々とコミュニケーションを密に取り、先行導入企業様の成功事例の共有や継続的な情報提供を行うことで、参加に前向きになっていただけるよう努めています。エフピコのリサイクル工場の見学や出前授業といった体験の場を通じて、取り組みの意義を実感していただくことも、共感を広げるきっかけとなっています。また近年では、販売部門スタッフによる製品や売場づくりの提案にとどまらず、環境配慮型素材の採用提案を進めるなど環境関連の課題解決を通じて、「まずエフピコに相談する」と思っていただける関係性の構築にも取り組んでいます。

「ストアtoストア®」に関連し地域との連携で実現した取り組みの一つに、高知県土佐市で実施した4コマ漫画トレープロジェクトがあります（下記参照）。子どもたちの作品が店頭に並ぶことで、リサイクルをより身近に感じてもらえるきっかけとなりました。この取り組みにより回収量は10~15%も増加しています。こうした子ども向け施策や環境イベントの拡充は、環境保護の将来の担い手づくりにも繋がる重要な取り組みとして位置づけています。

今後は、これまで関心の薄かった方々にも、無理なく参加していただけるきっかけづくりが重要になります。販売やサステナビリティ推進部門と連携しながら、地域自治体やお客様と共に、この循環の輪を着実に広げていきたいと思います。

土佐市 x サンシャイン x エフピコの連携で小学生の「4コマ漫画」が食品トレーに





エフピコは、地域と連携した取り組みを通じて、環境教育の推進とリサイクル意識の向上に取り組んでいます。その一環として、高知県土佐市および地元のスーパーマーケットチェーン企業である株式会社サンシャインチェーン本部様と連携し、2025年9月に市内小学校で海洋ごみやリサイクルをテーマとした出前授業を実施しました。多くの漫画家を輩出してきた「まんが王国・土佐」という郷土の特色を活かし、児童さんたちは環境を題材とした4コマ漫画を制作。72作品の中から選ばれた大賞作品はオリジナル食品トレーとして製品化され、12月6日よりサンシャインチェーン全店で使用されています。また、本取り組みは「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」の一環として実施されたものでもあり、11月29日には表彰式が開催されました。エフピコは、今後も地域とともに循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

リサイクル工場見学・オンライン工場見学

エフピコでは、リサイクル工場および選別センターにおいて工場見学を受け入れています。近隣の小学校をはじめ、全国の消費者団体、マスメディア、自治体の皆様など多くの方々にご来場いただき、2023年10月には見学者数が累計50万人を突破しました。

さらに、遠隔地にお住まいの方からのご要望にお応えし、オンライン工場見学も実施しています。加えて、「トレーtoトレー®」「ボトルto透明容器™」のリサイクル工程を、スマートフォンやパソコン、専用ゴーグルを通じて360°体験できるVR（バーチャルリアリティ）工場見学コンテンツも用意しています。

これからも多様な見学機会を通じて、リサイクルの取り組みを紹介するとともに、皆様のご協力への感謝の気持ちをお伝えしてまいります。



福山の選別センター



VR（バーチャルリアリティ）工場見学

工場見学の申し込み受付

見学受入日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:30（一部施設を除く）ホームページからもお申込みいただけます。

オンライン工場見学の申し込み受付

次回の開催は2026年夏頃を予定しています。

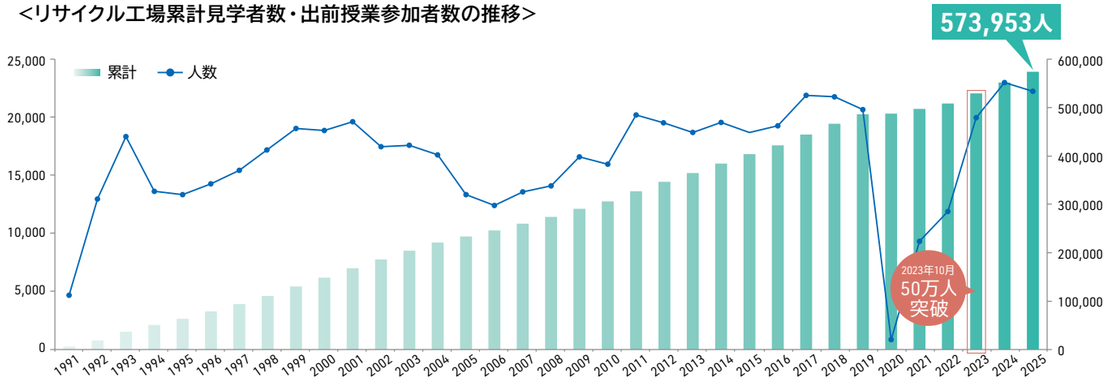
▶詳細はHP（https://www.fpco.jp/esg/environmenteffort/factory.html）をご覧ください。

VR（バーチャルリアリティ）工場見学

スマートフォンやパソコン、専用ゴーグルにて、360°の映像を視聴できます。

▶詳細はHP（https://www.fpco.jp/vr/）をご覧ください。

<リサイクル工場累計見学者数・出前授業参加者数の推移>



出前授業・講演などによる情報発信



エフピコは、持続可能な社会の実現に向けて、リサイクルの重要性や自社の環境への取り組みを広く発信しています。リサイクル工場の見学受け入れに加え、教育機関での講演や出前授業などを通じて、幅広い世代による理解促進に努めています。

特に小学生を主な対象とした出前授業では、社員が学校へ出向き、食品容器のリサイクルの仕組みや環境問題についてわかりやすく伝えています。実際の食品トレーや容器を用いた説明や、分別を体験できるゲームなどを取り入れることで楽しみながら資源循環について学びます。工場見学に出向くことが難しい児童・生徒の皆様とも直接コミュニケーションを図ることができ、先生方からも有意義なプログラムとして評価をいただいています。環境問題を「自分ごと」として考えていただくきっかけづくりを行うとともに、未来を担う世代への環境教育にも繋げています。

また、マスメディアや消費者団体、自治体関係者を対象とした講演活動も行い、循環型リサイクルの意義や環境課題への取り組みについて情報共有を進めています。

エフピコは今後も、地域社会と連携した出前授業や情報発信を継続し、次世代へ資源循環の大切さを伝えていきます。

■ 情報発信実績
（2026年3月期）

出前・オンライン授業・講演
124回実施 8,399名

お客様を通じて実施した出前授業
37回実施 1,498名

環境フェア・自治体イベント
39回実施 6,374名

お客様の店舗内でのイベント
108回実施 15,991名

小学生を対象とした出前授業



エフピコは、小学生を対象に環境教育をテーマとした出前授業を実施しています。今回で3回目の開催を迎えた都内の小学校では、3クラス87名の児童とその保護者が参加し、「エフピコ方式リサイクル」の紹介と、資源分別を楽しく学ぶ「わけっこゲーム」を行いました。

授業では、使用済み食品トレーが新たな食品容器へと生まれ変わる循環型リサイクルの仕組みを解説。ゲーム形式で分別を体験することで、楽しみながらリサイクルや資源循環への理解を深めていただきました。

お客様を通じて実施した出前授業

エフピコはスーパーマーケット様とともに、地域の小学校にて環境教育をテーマとした出前授業を実施しています。この取り組みは、店頭で回収した使用済み食品トレーを新たなトレーへと再生し、再び売場で活用する「ストアtoストア®」の考え方による食品トレー・容器の水平リサイクルを題材として、子どもたちに資源循環のしくみを伝えるものです。

授業では、スーパーマーケット様による店舗での取り組み紹介に加え、エフピコがリサイクルの必要性や分別方法を実物を用いて解説。児童たちは「見て・触れて・考える」体験を通じて理解を深めました。

社会における取り組み



エフピコは環境教育、地域社会支援、障がい者雇用推進などを通じて、社会との共生と持続可能な発展に取り組んでいます。

インクルージョンの推進

障がいのある人材の活躍

エフピコの障がい者雇用は、知的障がいのある子どもを持つ親の会「あひるの会」との出会いをきっかけに、1986年に設立された特例子会社ダックス（現・エフピコダックス㈱千葉工場）から始まりました。その後、2007年には民間営利法人として初の就労継続支援A型事業所（現・エフピコ愛パック㈱）を設立するなど、全国へと拠点を広げ、現在ではグループ全体で約400名の障がいのある人材が、基幹業務を支える存在として活躍しています。

エフピコダックス株式会社（特例子会社）

容器成形 / 回収容器選別

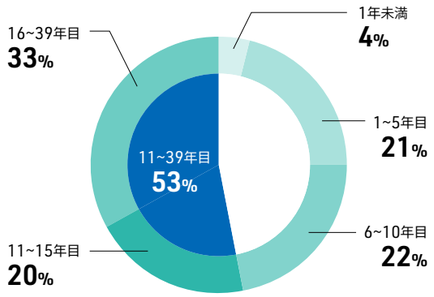
エフピコの特例子会社として厚生労働大臣より認定を受け、障がい者が健常者と助け合いながら働ける場を提供。一人ひとりの可能性を引き出し、その能力を戦力として活かしています。

エフピコ愛パック株式会社（就労継続支援A型事業）

容器組立 / 回収容器選別

社会福祉や環境問題に取り組んできたエフピコが、障がい者の就労機会拡大を目的に設立。営利法人として日本初の「就労継続支援A型事業所」に認定されています。

勤続年数内訳（2026年3月時点）



障がいのある社員数		405名
内訳	身体障がい	36名（うち重度13名）
	知的障がい	354名（うち重度[注1] 259名）
	精神障がい	15名
雇用率換算数[注2]		676.5名
障がい者雇用率		12.5%

（注1）職業判定上の重度を含む
（注2）重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人数

お取引先様による障がいのある人材の雇用サポート

エフピコグループは、お取引先様を中心に、障がい者雇用の自立・定着に向けた支援を行っています。これまでに培ってきた経験やノウハウを活かし、各社が自立自走できる体制づくりをサポートしています。また、「企業による障がい者雇用連携ネットワーク会」を開催し、参加企業同士が情報共有や意見交換を行う機会を設けています。課題や取り組み事例を共有することで、より良い障がい者雇用の実現を目指しています。

フロアホッケーを通じたインクルージョンの推進

エフピコグループは2010年からユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動を推進し、障がいの有無を超えた交流を深めています。また、全日本フロアホッケー競技大会や西日本大会のメインスポンサーを務め、社員がボランティアとして大会運営を支えるなどインクルージョンの輪を広げています。



現場担当者が語る



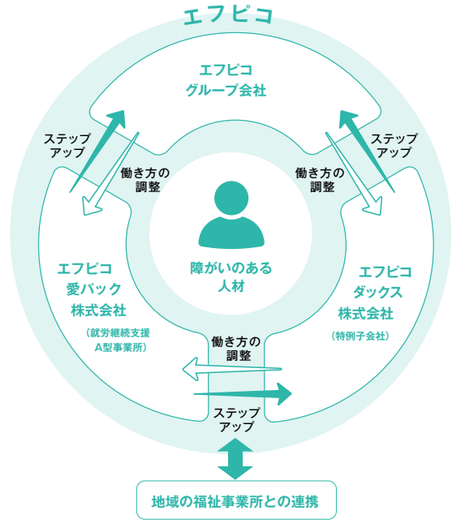
一人ひとりに寄り添う、地域と連携した障がいのある人材のキャリア形成

エフピコは、障がいのある人材が自分らしく働き続けられるよう、キャリア形成の環境づくりに取り組んでいます。エフピコダックス株式会社やエフピコ愛パック株式会社での就労機会の創出に加え、エフピコグループ各社での一般就労へのステップアップなど、多様なキャリア形成の機会を設けています。また、地域の福祉事業所との連携も行い、一人ひとりの状況に応じた働き方を実現し、誰もが長く活躍し続けられる企業グループを目指しています。

例えば、ダックスで業務経験を積んだ社員が、物流や製造部門などのグループ会社での業務へステップアップし、活躍の場を広げる事例が生まれています。また、障がいのある社員が新たな役割に挑戦し、ステップアップ先の社員と同様の給与体系で活躍する事例も生まれるなど、着実にキャリアアップの実績が積み重なっています。こうした動きは、「次は自分も」という意欲を生み、職場全体のモチベーション向上にも繋がっています。

一方で、体調や生活環境の変化に応じて働き方を見直しながら、長く働き続けている社員も多くいます。こうした柔軟な対応により、無理なく働き続けることのできる人生設計を行えるのは、大きな成果のひとつです。

また、同じ職場のなかでステップアップするというケースもあります。後輩の指導役を担うことにより、「仲間に必要とされている」という実感が湧いて働く意欲や自信が増すというケースです。こうした成長の積み重ねは、個人のキャリア形成にとどまらず、職場全体の力の向上にも寄与しています。



エフピコが目指しているのは、障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが役割を持ち、活躍し続けられる企業グループです。その実現には、制度の整備に加え、現場での対話や周囲の理解を通じて、単に「働く場」をつくるのではなく、その人が自分らしく誇りを持って長く働き続けられる環境を整えていくことが重要だと考えています。今後も、一人ひとりの可能性に寄り添いながら、それぞれが自分らしいキャリアを築き、長く力を発揮できる環境づくりを進めていきます。

健康経営

健康宣言 エフピコグループは、創業以来「健康」を社訓のひとつとしています。社員一人ひとりが、やりがいや充実感を持ちながら、イキイキと働くことができるよう、健康維持・増進活動を推進し、健康職場づくりを発展させています。

「職場で健康プロジェクト」の実施

「私の健康宣言カード」
毎年健康宣言カードをグループ社員に配付し、社員一人ひとりがその年の健康活動目標を記載して健康維持・増進活動を推進しています。

身体と心の健康診断
定期健康診断の受診率は99.9%、ストレスチェックの受検率は97.2%（2026年3月期）。50人未満の事業所も含め全社員を対象に受検率向上に取り組んでいます。

産業医によるサポート・保健指導
50人未満の事業場を含むすべての事業場で産業医を選任し、安全衛生活動を推進。保健師による特定保健指導や健康診断結果のフォローを実施し、外部機関と連携して24時間365日対応の健康相談体制を整えています。

「健康セミナー」
社員の心身の健康について維持増進を図るために毎年「健康セミナー」を開催しています。2026年3月期は、睡眠と生活習慣病、オーラルケア、女性の健康などをテーマに計3回開催しました。

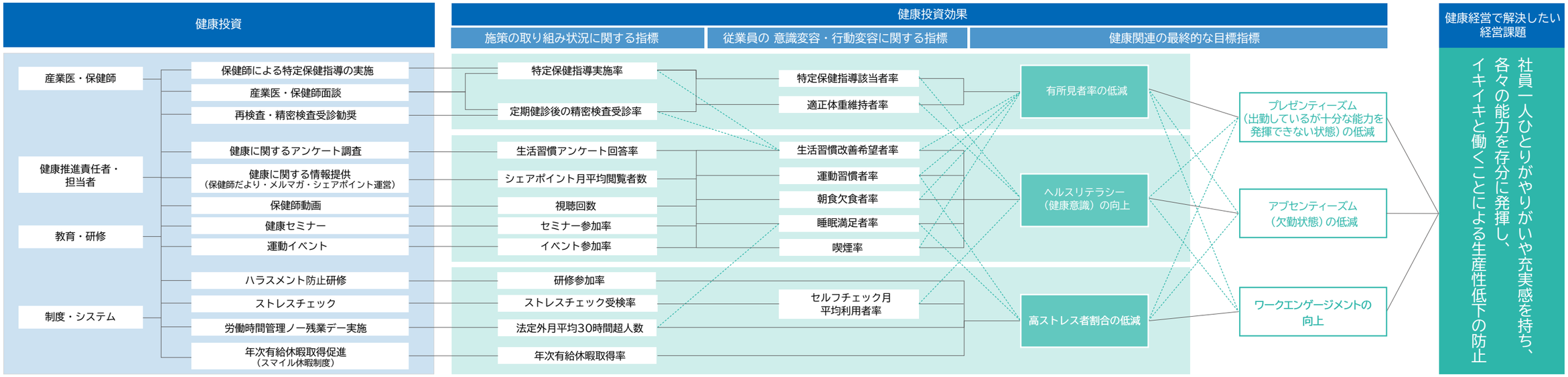
生活習慣改善への取り組み
生活習慣改善の推進のため、生活習慣調査を毎年実施しています。加えて、卒煙強化週間やPicoベジweek（野菜摂取週間）、カラダづくり測定会などを企画し、社員のセルフケアの推進を図っています。2026年3月期は、運動習慣の形成やコミュニケーションの促進を目的に、『エフピコグループウォークラリー』を2回開催し、延べ3,098名が参加しました。

休職復職支援体制
円滑な職場復帰の実現を図るための支援内容及び体制についてのマニュアルを作成し、長期欠勤者の休職開始のフォローおよび復職フォローの体制を整えています。

健康情報の発信
社内イントラネットに「職場で健康プロジェクト」専用ページを設け、プロジェクトプログラムの情報発信をしています。また、『保健師だより』や『保健師動画（YouTube）』など、あらゆる機会を通じて健康情報を積極的に発信し、ヘルスリテラシーの向上を促進しています。

エフピコグループ 健康経営戦略マップ

エフピコグループでは、健康経営戦略のストーリーを可視化し、効果的にPDCAサイクルを回すために「健康経営戦略マップ」を作成・運用しています。項目ごとに目標値を定め、各種取り組みを推進しています。



社員の健康を支える「保健師動画」シリーズ

エフピコでは、2024年度より社員の健康維持・増進を目的に、保健師動画シリーズ『Pico健康room』を配信しています。社内の保健師がストレス対処や心の健康を保つ「セルフケア」、管理職向けの「ラインケア」など、健康に関する知識や職場でのメンタルヘルス対策を解説し、社員の健康管理意識向上をサポートしています。





保健師監修『Pico健康room』

健康経営優良法人2026

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 中小規模法人部門

エフピコグループ9社、「健康経営優良法人」に認定

エフピコは、社員の健康管理を経営的な視点で戦略的に実践する企業として、5年連続で「健康経営優良法人（大規模法人部門）」の認定を受けました。2021年に策定した「エフピコグループ健康宣言」のもと、健康情報の発信や「ウォークラリー」など、様々な取り組みを継続。こうした活動が評価に繋がっています。

また、グループ8社において初めて健康経営優良法人（中小規模法人部門）に認定されました（エフピコダイヤフーズ㈱、エフピコ上田㈱、エフピコイシダ㈱、エフピコアルライト㈱、エフピコグラビア㈱、エフピコ愛パック㈱、㈱エフピコ兵庫、西日本ペットボトルリサイクル㈱）。

引き続き、グループ全体で健康経営を推進していきます。

人材育成方針

詳細はこちら

持続的な成長のために努力と挑戦を続けるエフピコグループの最大の資産は“人材”です。そのため、採用から教育、活用、そして退職に至るまで、一人ひとりが個性を発揮できるような「人づくり」の仕組みの強化に努めています。やりがいのある充実した職業人生の実現と組織の一層の活性化を推進し、企業グループ全体の価値向上を目指します。

＜研修体系＞

	OFF-JT		一般教育			自己啓発			
役職者	新任役職者研修		ハラスメント防止研修	情報セキュリティ研修	健康セミナー	資格取得奨励制度 資格取得支援制度	社内通信教育受講支援制度	社外スクール受講支援制度	英会話学習
管理職	新任マネージャー研修								
中堅	リーダー研修	海外研修							
若手	スキルアップ研修	マンツーマンリーダー研修							
	ネクストステージ研修								
新入社員	新入社員研修	フォローアップ研修							

マンツーマンリーダー研修：新入社員の育成担当として1年間メンターを務める社員を対象とした研修。後輩指導に必要な知識・姿勢を学ぶとともに、自身の「教える力」の向上を図ります。

リーダー研修：中堅社員を対象に、自覚と責任感を醸成し、自ら考え付加価値の高い成果創出につなげるための研修。論理的思考、リーダーシップ、コーチング、外部環境理解、組織戦略などを3年間かけて段階的に学びます。

新任マネージャー研修：新たに管理職へ昇格した社員向けの研修。チームづくりや部門間連携、部下育成をテーマに、ロールプレイ等を通じて意識改革と行動変容を促します。

海外研修：勤続10年以上のグループ社員を対象に実施。海外スーパーマーケットの視察やグループ企業間交流を通じて、視野拡大と学びの深化を図ります。

自己啓発支援制度：社員・パートタイマーの主体的な能力開発を支援する制度。通信教育は修了者に受講料の8割を補助、英会話は受講率やレベルに応じて補助を実施。さらに、社内で求められる資格取得や社外スクール受講に対する費用補助も行っています。（（株）エフピコ 2026年3月期 活用件数：362件）

その他各種研修：経理・財務実務のスキル向上を目的とした専門研修、ESG・SDGsを学ぶ環境関連研修会、情報セキュリティに関するe-learningなど、多様なテーマで継続的に学習機会を提供しています。

多様な働き方を選べる65歳までの選択式定年延長

多様な働き方のニーズのもと、社員は、定年年齢を60～65歳の中から選ぶことができます。65歳以前の定年退職を選択した場合でも、希望者は全員、再雇用社員（1年更新）として65歳まで働くことが可能です。また、本人と会社が希望する場合、65～70歳の再雇用（1年更新）も可能です。

対話と能力開発を重視した評価制度

エフピコでは、評価者と被評価者の対話を重視した人事評価制度を導入しています。半年ごとの成果貢献評価と、年1回の役割発揮評価を通じて、社員一人ひとりが中長期的な視点で目標を設定し、上司との対話を重ねながら成長を目指す仕組みを整えています。また、賞与は会社業績に加え、成果貢献評価の結果を反映して算出しています。

現場担当者が語る

ともに学び、グループ全体の成長へ



人事部 人事課
（左から）阿閉 佑馬 / 高橋 えり / 谷口 美貴 / 豊原 美紗

エフピコでは、階層別研修のグループ合同実施を段階的に拡充しており、グループ会社も含めた社員同士の交流を促進するとともに、ともに学ぶことを通じて、考え方の視点や知識の共有を図っています。これにより、グループ全体の人材育成の強化および各部門の役割理解と連携強化に取り組んでいます。また、すべての研修において「まず自分で考える」ことを大切にしており、社員一人ひとりの主体的な行動変容に繋がるよう研修プログラムを構築しています。

グループ独自の循環型バリューチェーンのさらなる理解を目指した「ネクストステージ研修」では、若手社員が製造・物流・リサイクルの現場を体験し、安定した製品供給を支える現場の工夫や努力を体感的に学びます。これにより、他部門業務への理解や感謝が生まれ、自分の業務がどのように全体と結びついているかを考える力が養われています。販売部門においても、研修を通じて製造現場への理解が深まったことにより、前倒しでの計画や正確な情報共有を意識する動きが生まれ、現場の負担軽減に繋がるなどの変化もみられています。

今後も、採用から育成、活躍の機会づくりに至るまで、個性を発揮しながら成長できる環境づくりをさらに強化していきます。失敗から学び、次へと活かすサイクルを大切にしながら、挑戦が歓迎される風土を醸成し、価値創造の基盤となる組織全体の一層の活性化と持続的な成長を目指してまいります。

健康を大切にする職場づくりと、イキイキと働ける環境へ



人事部 人事課
（左から）滝宮 佳子 / 吉田 智子 / 新井 利恵

エフピコでは、社員一人ひとりが心身ともに健やかに働けることが、会社の成長に繋がると考えています。今期は新たにヘルスケアアプリ（QOLism）を導入。ウォークラリーをはじめ、睡眠や食事の記録など、日々の生活の中で無理なく健康意識を高められる仕組みを整えました。アプリを通じて情報を発信することで、いつでもどこでも気軽にアクセスできるようになります。自分の体調や生活習慣に目を向け、主体的に健康づくりに取り組めること、その環境をつくることが、私たちの役割だと考えています。

2023年から年2回継続してきたウォークラリーは、社内の恒例行事として定着してきました。運動習慣率も年々向上しており、「まわりの人と一緒に取り組めて楽しかった」「他の人の頑張りが励みになった」といった声も届いています。部署や立場を越えて参加できるからこそ、社員同士のコミュニケーションが生まれ、一体感にも繋がっていると感じています。

こうした取り組みの背景にあるのは、社訓にも掲げる「健康」、つまり「社員の健康が、会社の発展を支える」という考え方です。身体だけでなく、心の健康にも目を向けながら、社員一人ひとりがイキイキと働ける職場環境を整えていきたいと思っています。社員が心身ともに健康で、持てる力を存分に発揮できること。それも、エフピコの目指す「いい会社」です。これからも、健康を起点とした取り組みを続けていきます。

社員のエンゲージメント向上

エフピコグループは、「世界人権宣言」や「労働における基本的原則及び権利に関するILO（国際労働機関）宣言」等の国際規範を支持しており、以下の方針に基づいて人権と個人を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現します。

詳細はこちら

エフピコグループ人権方針

1 すべての人がお互いの個性と人権を尊重し、年齢・国籍・人種・信条・宗教・性別・性的指向・性自認・障がい・社会的身分や社内的地位などを理由に差別されることなく公正な扱いを受け、平等な機会を得る権利を有するという基本原則の下、「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」に基づきすべての事業活動において、人権と個人を尊重し、良き企業市民として高い倫理観と社会的良識を持って行動し、すべてのステークホルダーと健全かつ正常な関係を保ち、社会から信頼される企業グループとして持続的に企業価値を高めて参ります。

2 ハラスメントを禁止し、そのような言動を一切容認しません。ハラスメントの防止に係る体制の整備、発生したハラスメントへの的確な対応を行うことによりハラスメントの防止を図り、業務の円滑な運営と働きやすい職場環境を確保します。

3 法令及びその他の労働基準を遵守し、事業活動を行ういかなる場所でも、児童労働・強制労働を禁止します。

4 心身ともに健康で、安全かつ安心していきいきと働くことができる職場環境を整備するとともに、仕事と生活の調和のとれた働き方を推進します。

5 労働法令を遵守し、社員へ最低賃金以上の賃金を支払います。

6 労働者の団体権、団体交渉権等を企業として尊重すべき基本的人権の要素と考え、労働者の権利を妨げません。

7 事業活動を行う国・地域において適用される法令を遵守します。万一、当該国・地域の法規制と国際的な人権規範が相反する場合には、当該国・地域の法令の範囲内で、国際的な人権規範を尊重する方法を追求します。

人権方針に基づく取り組み

児童労働・強制労働の禁止

採用活動にあたっては、当該国・地域の法令を遵守します。採用時には年齢確認を徹底することで、児童労働の発生を防止します。また、強制労働防止のため、パスポートなど社員の重要書類の会社保管や移動の自由の制限は行いません。

同一労働・同一賃金

エフピコグループは、法律で定められた最低賃金以上の支払いを遵守し、同一資格・同一職務レベルにおいて統一された報酬体系を適用しています。

ハラスメント防止研修の実施

エフピコグループの全社員を対象に、ハラスメントの防止と健全な職場環境の確立を目的とした研修を継続的に実施しています。今期は、全社員が同一内容の研修を受講する形とし、ハラスメントに関する関係法令の基礎知識に加え、実際に職場の相談窓口に寄せられた事例や、日常業務における適切なコミュニケーション技法について学ぶ内容としています。（2026年3月期、4,609名受講済）
さらに、グループ各社において職場のハラスメント相談対応を担う社員を対象として、相談時の留意点や初期対応の実施方法等について、グループワークを含む講義およびｅラーニングによる研修を新たに実施しています。これらの取組により、適切な相談対応と問題解決能力の向上を図っています。（2026年3月期、220名受講済）

働きがいのある職場環境の整備

エフピコグループは、社員が個々の力を発揮し、やりがいを持って働ける環境づくりを重視して職場環境の整備に取り組んでいます。

主な取り組み

制度・施策	内　容
スマイル休暇	労働時間の有効活用と心身のリフレッシュ等を図ることを目的に導入（原則、連続5日間の年次有給休暇取得）。
時間単位の年次有給休暇	通院や子どもの学校行事への参加、介護等の事情に応じて柔軟に取得できるよう最大年5日の時間単位の年次有給休暇制度を導入。
男性の育児休暇	男性社員が、子どもが1歳になるまでの間に連続5日間の休暇取得（有給）を義務化する制度を導入。併せて男性の育児休業の取得も促進。
育児時短勤務	小学校6年生まで育児短時間勤務を拡充。
時差出勤	8パターンの時差出勤を導入。
ノー残業デー	社員が仕事と生活の調和を図りつつ効率的な業務遂行を実現することを目的に、原則週2日のノー残業デーを実施。
テレワーク	出社との最適な組み合わせにより、生産性の維持・向上の実現を図ることを目的に導入。
レクリエーション費補助	社内旅行、忘新年会、歓送迎会など社員の親睦を深める行事に対して一定額の費用をサポート。
ライフサポート休暇	介護、看護、病気やケガの治療、不妊治療と仕事の両立支援を目的に、失効した年次有給休暇を10日、累計50日を上限に積立て、利用できる制度を導入。







安心して働ける環境づくり

ライフステージに応じた休暇・休業制度の拡充

エフピコでは、社員が療養・看護・介護などに直面した際にも安心して働き続けられるよう、「ライフサポート休暇制度」を2026年3月に導入しました。

本制度は、失効した年次有給休暇を積み立て、私傷病や家族の介護・看護、不妊治療などに活用できる仕組みであり、社員が安心して働き続けられる環境を整えるためのものです。

これまで子育て支援を中心に制度整備を進めてきましたが、近年は介護への対応も重要な課題と捉え、介護休業期間の延長等、両立支援を拡充してまいります。

■ 積立のイメージ

毎年3月16日の年休付与のタイミングで自動積立

失効した年次有給休暇がある場合

- <年間10日まで><上限50日まで>ライフサポート休暇として自動積立
- 10日を超える日数は失効

失効した年次有給休暇10日間を、5年間積み立てた場合

年次有給休暇　最大40日

＋

ライフサポート休暇　最大50日

エフピコグループ感謝祭、各地で開催



感謝祭 in 北海道



感謝祭 in 東京



感謝祭 in 福岡

社歌をきっかけに広がる、感謝とつながりの場

エフピコグループは、「NIKKEI 社歌コンテスト 2025」に応募し、全国の社員が一体となってグループの魅力と結束力を発信した結果、見事大賞を受賞しました。社歌を通じて心を通わせ、その輪を明日への活力へと繋げていきたい――そうした想いから、社員同士の交流やご家族への感謝を伝える場として「エフピコグループ感謝祭」を全国7カ所で順次開催しています。

その原点となったのが、社歌コンテスト応募動画の撮影の舞台となった福山での感謝祭です。当日は社員とそのご家族が多数参加し、社歌を通じて心をひとつにすることで、グループの絆がより一層深まりました。

感謝祭はその後、2025年9月に北海道、11月に東京、2026年2月に福岡で開催され、今後は2026年6月に中部エリア、同年10月に東北エリア、2027年2月には関西エリアでの開催を予定しています。

各会場では、地域ごとの特色を活かしながら、実行委員が趣向を凝らした企画を展開しています。参加者からは、「部署やグループ企業の垣根を越えて交流が生まれ、これまで接点の少なかった社員や役員とも直接言葉を交わすことができた」といった声が寄せられ、普段の業務では得られない新たな繋がりや相互理解の広がりが実感されています。また、子どもたちにとっても、保護者が働く職場の雰囲気を身近に感じる貴重な機会となりました。

エフピコはこれからも、社員とそのご家族への日頃の感謝を伝えるとともに、“エフピコらしさ”にあふれる交流の場を創出していきます。

コミュニティへの参画

エフピコはコミュニティの一員として事業所や工場がある地域の方々との共生を目指しています。2025年度は、スーパーマーケット様をはじめとする様々なステークホルダーの方々との協働で環境イベントを開催するとともに、各地域で開催される展示会やイベントに積極的に参加しました。

福山市と連携し、資源循環と環境教育を推進

エフピコは2025年4月、広島県福山市と「資源循環及び脱炭素等の促進に関する連携協定」を締結しました。本協定は、市民一人ひとりが資源循環や脱炭素社会の担い手となり、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現を目指すものです。

協定では、「トレーtoトレー®」「ボトルto透明容器™」による地域の資源循環の拡大をはじめ、再生可能エネルギーの推進、環境教育・環境学習の支援、海洋プラスチック対策など、幅広い分野で連携を進めていきます。

また、福山市内の小・中学校に向けて、学習まんが『食品トレーのひみつ』を1,000冊寄贈。次世代を担う子どもたちが、資源循環や環境問題について身近に学べる機会づくりにも取り組んでいます。





国際バラ会議でエフピコの取り組みを発信

エフピコは2025年5月、5日間に亘り福山市内のニューキャッスルホテルで開催された「国際バラ会議」に出展しました。会場には、中国、カナダ、インド、アメリカ、フランス、ポーランド、ウルグアイ、ドイツそして日本など、世界各国から約700名のバラ愛好家やマスメディア関係者をお迎えし、様々なテーマによる講義が繰り広げられています。

会場入口近くという好立地もあり、エフピコのブースは多くの来場者で賑わいました。特に、バラをモチーフにした意匠パネルはフォトスポットとして注目を集め、記念撮影を楽しむ来場者の姿も多く見られました。

また、会場内で放映されたCM動画を通じて、エフピコの環境への取り組みや企業活動についても発信。多くの来場者に関心を持っていただく機会となりました。

循環型社会を担う次世代とのコミュニケーション

エフピコは、公益財団法人日本環境協会主催の「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に毎年出展し、食品トレー・容器のリサイクルをテーマに情報発信を行っています。2026年3月21日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された同イベントにも例年通り出展し、全国各地の子どもたちによる環境活動の発表に耳を傾けるとともに、参加者との交流を行いました。

エフピコのブースでは、食品トレー・容器のリサイクルの仕組みを紹介し、その理解を深めていただくツールとして、VRによる工場見学コンテンツを提供。体験型で学べる内容が子どもたちの関心を集め、多くの来場者に体験いただきました。




エフピコ環境基金

創設から7年目を迎える「エフピコ環境基金」は、気候変動や海洋プラスチックごみ問題をはじめとする、様々な環境課題に向き合う団体への助成を行ってきました。助成先団体が実施するプログラムには、エフピコグループの社員も積極的に参加し、環境保護活動の現場に触れながら学びを深めています。

詳細はこちら

エフピコ 環境基金

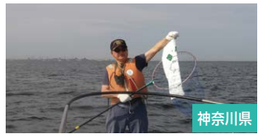
第6回（2025年度）の助成先団体と活動

環境保全活動



気仙沼本吉サーフィンクラブ

企業・団体・学校・住民みんなで築く地域の環境づくり



特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊

「東京湾の浮遊ごみ回収でマイクロプラスチックゼロ作戦」活動



NPO法人 Gomi-Map

「ゴミマップ」最寄りのリサイクルスポットを表示するモバイルアプリ



特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム

大阪・関西万博を契機としたごみゼロ共創ネットワークの伴走支援



瀬戸内海宇治島クラブ

宇治島サニーアイランド・クリーン作戦



ひかりエコメイト

川と海をつなぐSDGs-14アクション



特定非営利活動法人 こが里山を守る会

里山の保全整備・市民（子どもたち）参加の自然環境体験学習



特定非営利活動法人 ジョイライフさやま

水辺周辺整備清掃と環境保全の大切さを伝える自然体験



公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金

八代海沿岸域における産官学金民連携による広域的・持続可能なアマモ場再生支援体制構築事業



特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所

河北潟の環境保全活動と被災地支援活動継続の仕組み作り



大阪府立みどり清朋高校 地域貢献部

「ワイらココ住んでまんねん」すべての川は海につながる

能登半島復興特別枠



特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所

能登半島地震被災地における環境保全活動参加の仕組み作り

環境教育・研究活動



逆川こどもエコクラブ

外来魚の有効活用プロジェクト



特定非営利活動法人 棚田LOVERS

大阪体育大学と連携し、昨年の参加者がリーダーとなり、体験型教育で子どもたちの自然環境を大切にする心を深く育む



公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

みやぎのSDGs環境学習支援～課題解決に向けて行動しようとする児童・生徒の育成～



NPO法人 SDGs Spiral

SDGs万華鏡"KAGUYA"プロジェクト



兵庫県立明石北高等学校 科学探求部生物班

兵庫の地元の生物多様性を守る取組み～環境教育・探求活動・地域連携を軸に～



株式会社エフピコ　社外取締役
浅利 美鈴

京都大学大学院地球環境堂 准教授などを経て、2024年より当社社外取締役。現在は大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授なども務める。家庭から出るごみの研究を続けるほか3R・気候変動検定など市民への環境教育や啓発活動に長らく従事。

秘書室秘書課
橋本 緑子
（2026年2月までサステナビリティ推進室エフピコ環境基金担当）

私たちが伝えたいこと

エフピコ環境基金事務局の想い

一昨年にエフピコの社外取締役に就任した浅利美鈴は、エフピコ環境基金の設立当初より助成先選定の審査をしており、この活動を社外から見守ってきました。設立から7年を迎えた今、社内で事務局の責任者を務めるサステナビリティ推進室の橋本と共に、エフピコ環境基金に込めた想いを語ります。

浅利：2020年のエフピコ環境基金立ち上げのときからこの活動に携わっています。当時は外部の専門家という立場でしたが、長年ごみ問題に関わってきた人間として少しでもお役に立てればという想いがありました。外から見ていて、エフピコが食品容器やプラスチック、資源循環を象徴する企業だと感じたのです。特にプラスチックについては、誤解や逆風もあるなか、資源循環を牽引している企業としての存在感がありました。そのエフピコが創設した環境基金を一緒に育てていきたいと思いました。

私は主に助成先を選定するプロセスに関わってきましたが、経営陣のトップの方々も審査に加わり、かなり厳格に行っています。ランダムにお金を渡すということは決してありません。この姿勢はエフピコ社内にも貫かれていて、社員による助成活動への参画などを含め助成先をパートナーとして捉え、共にごみ問題を含めた環境活動の広がりを目指しています。

助成先の採択も年間10団体から現在では17へと拡大しました。ごみや環境問題に携わる私の仲間から、「エフピコ環境基金でこんなことができた」と聞くことがあり、やっていて良かったと嬉しくなることもあります。

まだ環境関連基金としては歴史が浅い方ですが、継続していくことが一番大事だと思います。

橋本：エフピコは食品容器のリサイクルを通じて環境問題に取り組んでいますが、エフピコ環境基金の助成を通じて、全国各地で環境保護活動をしている団体の皆さんと一緒にこの取り組みの輪を広げていくことがこの基金の目的のひとつです。

事務局の業務として助成団体の皆さんと連絡を取り合うだけでなく、実施されるボランティア活動にも参加しています。私だけでなく、エフピコグループ全体でも社員にボランティアへの参加を呼びかけ、年々参加人数が増えているのが嬉しいです。活動内容も多種多様で、参加者が楽しめる工夫もあります。棚田保全活動に参加した時は、「棚田で泥んこレスリング」が開催され、全身泥だらけになるというレアな体験もできました。ボランティア活動に参加して一番感じるのは、助成団体の皆さんの熱意です。環境問題の解決に少しでも寄与したいという思いがひしひしと伝わり、私自身の意識も変わりました。

また、助成団体の皆さんにエフピコのリサイクル工場見学にお越しいただいたことや、助成団体の方々からの紹介でエフピコの出前授業（環境教育）を小学校で行ったこともあります。こうして生まれた新たな繋がりから、環境保護活動の輪が広がっていったら良いですね。

ガバナンスにおける取り組み



エフピコでは、透明性の高いガバナンス体制のもとで、あらゆる意思決定を行っています。また、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指し、社内体制の整備に努めています。

基本的な考え方

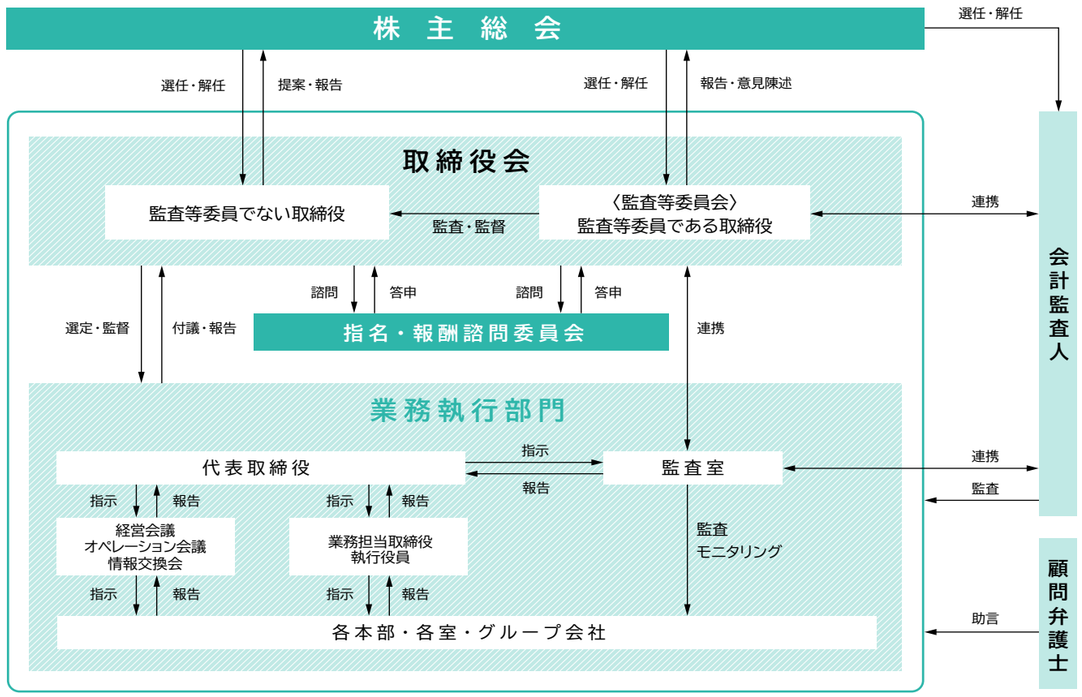
エフピコのコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、意思決定の透明性・公正性を確保し、保有する経営資源（人・物・金・情報）を有効に活用することです。さらにこれらを迅速かつ果断な意思決定により実行し、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指しています。そのための基本方針として以下の5つを掲げています。

1 株主の権利・平等性の確保
2 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
3 適切な情報開示と透明性の確保
4 取締役会等の責務
5 株主との対話

ガバナンス体制

経営の意思決定の迅速化と取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することを目的として、監査等委員会設置会社を選択しています。独立社外取締役のみで構成される監査等委員会が経営監視の役割を担い、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

内部統制システムの概要を含むコーポレートガバナンス体制についての模式図



コンプライアンス

エフピコでは、企業倫理の確立と法令遵守を推進するため、社長直轄の「法務・コンプライアンス統括室」を設置。「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」「行動羅針盤」を定め、健全な企業風土の醸成と社内規定の遵守徹底に取り組んでいます。

さらに、グループ全体のコンプライアンス強化のため、2年に1度の内部監査を実施してリスク管理や法令遵守の状況をモニタリング。必要に応じて改善を行う体制を整備しています。また、取締役会で内部通報件数・内容を報告し、半年ごとに行動憲章や行動規範の有効性を検証しています。

詳細はこちら

リスクマネジメント

エフピコグループは、「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」という経営理念の基本3本柱を追及するために、リスクマネジメントの強化に努めています。

取締役会にて「リスク管理規程」を定め、グループ全体のリスクを管理しています。生産・販売・物流に関する業務リスクは、取締役や執行役員、ジェネラルマネージャーが参加するオペレーション会議で議論。グループ会社を含むリスク管理については、情報交換会を開催し、取締役や執行役員、グループ会社の代表者が対応状況を共有しています。リスク管理の具体例は以下の通りです。

リスクサーベイの実施
自然災害による被害の抑止や労働災害の未然防止を目的に、エフピコグループでは各生産・物流拠点でリスクサーベイを実施しています。外部専門家が事業所を訪問し、リスクの洗い出し、分析・評価を行い、必要な対策とその効果検証を通じて管理体制を強化しています。

自然災害への備え
非常用備蓄品や72時間対応の非常用発電設備の整備、消火訓練、災害時優先電話の設置を実施しています。また、安否確認システムを導入し、定期的な訓練を通じて災害時の迅速な対応体制を強化しています。

製品安全のリスクへの対応
製品安全の確保を最優先に、「FSSC22000」の認証を取得し、食品衛生法や各種規格への適合を徹底しています。また、PL制度（ポジティブリスト）にも対応しています。厳格な品質管理体制のもと、自社基準での検査や異物混入防止、トレーサビリティの強化を実施しています。

情報セキュリティに関するリスク対応
オフィスの入退場管理に加え、複合施設では車両のナンバープレートを利用したセキュリティゲートを設置。データ管理においては、定期的なバックアップ、非常時対応用の外部データセンターの活用、回線の二重化やメール誤送信防止システム、PC廃棄の徹底などを実施しています。

株主との関わり

エフピコは、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するため、株主の皆様との建設的な対話を積極的に行い、そのご意見やご要望を経営に反映していくことが重要であると考えています。株主総会や年2回の決算説明会に加え、個別ミーティングや施設見学会なども実施し、中長期的な経営戦略や事業内容をより分かりやすく説明することで、株主の皆様との信頼関係の構築と適正な株価形成に努めています。

また、常に適時・適正・迅速・公平な企業情報の開示に努め、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどをホームページの「株主・投資家情報」で公開するなど、透明性の高い情報開示を推進しています。

詳細はこちら

CORPORATE PROFILE

企業プロフィール

グループ会社・拠点一覧 …… 72
人材データサマリー …… 73
財務サマリー（連結） …… 74
環境データサマリー …… 75
ESG 指数・社会的な評価等 …… 77
エフピコのあゆみ …… 79

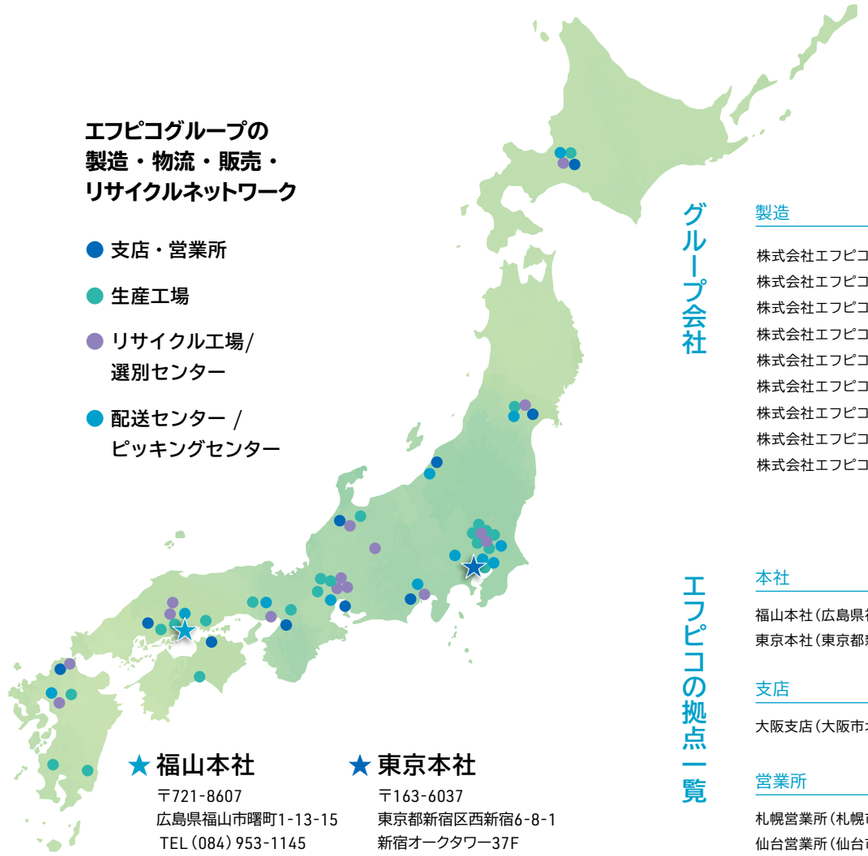
広島県福山市でスタートして64年。エフピコグループの全国ネットワークの発展は続きます。

2023年には兵庫県に生産工場と物流センターの大型複合施設をつくり、製造と物流の全国ネットワークが整いました。今後は茨城県に新素材の生産工場を開設予定です。事業規模の拡大に伴い、必要となる事業インフラを随時充実してまいります。



エフピコグループの製造・物流・販売・リサイクルネットワーク

- 支店・営業所
- 生産工場
- リサイクル工場/選別センター
- 配送センター / ピッキングセンター



★ **福山本社**
〒721-8607
広島県福山市曙町1-13-15
TEL（084）953-1145

★ **東京本社**
〒163-6037
東京都新宿区西新宿6-8-1
新宿オークタワー37F
TEL（03）5320-0717

会社概要

商　　号	株式会社エフピコ
設　　立	1962年（昭和37年）7月
代 表 者	代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表 佐藤 守正 代表取締役社長 安田 和之
資 本 金	13,150百万円
社 員 数	1,024名（エフピコグループ：5,306名）
事業内容	ポリスチレンペーパーおよびその他の 合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに 関連包装資材等の販売

ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

グループ会社・拠点一覧

グループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道
株式会社エフピコ山形
株式会社エフピコ茨城
株式会社エフピコ八千代
株式会社エフピコ下館
株式会社エフピコ筑西
株式会社エフピコ富山
株式会社エフピコ中部
株式会社エフピコ兵庫
株式会社エフピコ笠岡
株式会社エフピコ福山
株式会社エフピコ神辺
株式会社エフピコ九州
エフピコダックス株式会社
エフピコ愛パック株式会社
エフピコアルライト株式会社
エフピコグラビア株式会社
西日本ペットボトルリサイクル株式会社

物流

エフピコ物流株式会社
株式会社アイ・ロジック
エフピコイーストロジ株式会社
エフピコウエストロジ株式会社

関連会社

FP Malaysia Sdn.Bhd.
Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.

商社・販売・その他

エフピコ商事株式会社
エフピコチューパ株式会社
エフピコダイヤフーズ株式会社
エフピコインターパック株式会社
エフピコイシダ株式会社
エフピコ上田株式会社
株式会社アペックス

エフピコの拠点一覧

本社

福山本社（広島県福山市）
東京本社（東京都新宿区）

支店

大阪支店（大阪市北区）

営業所

札幌営業所（札幌市中央区）
仙台営業所（仙台市青葉区）
新潟サテライトオフィス（新潟市中央区）
静岡営業所（静岡市駿河区）
名古屋営業所（名古屋市中村区）
北陸営業所（石川県金沢市）
広島営業所（広島市西区）
四国サテライトオフィス（香川県高松市）
福岡営業所（福岡市博多区）

研究所

エフピコ総合研究所（広島県福山市）

生産工場

北海道工場（北海道石狩市）
山形工場（山形県寒河江市）
関東八千代工場（茨城県結城郡）
関東工場（茨城県結城郡）
関東エコペット工場（茨城県結城郡）
関東下館工場（茨城県筑西市）
筑西工場（茨城県筑西市）
関東つくば工場（茨城県下妻市）
エフピコダックス（株）千葉工場（千葉県習志野市）
富山工場（富山県射水市）
中部工場（岐阜県安八郡）
中部エコペット工場（岐阜県安八郡）
近畿亀岡工場（京都府亀岡市）
関西工場（兵庫県小野市）
笠岡工場（岡山県笠岡市）
福山工場（広島県福山市）
神辺工場（広島県福山市）
エフピコダックス（株）高知工場（高知県南国市）
九州工場（佐賀県神埼郡）
南郷工場（宮崎県日南市）
鹿児島工場（鹿児島県鹿児島市）

リサイクル工場 / 選別センター

関東リサイクル工場（茨城県結城郡）
関東PETリサイクル工場（茨城県結城郡）
中部リサイクル工場（岐阜県安八郡）
中部PETリサイクル工場（岐阜県安八郡）
福山リサイクル工場（広島県福山市）
北海道選別センター（北海道石狩市）
山形選別センター（山形県寒河江市）
茨城選別センター（茨城県坂東市）
松本選別センター（長野県松本市）
東海選別センター（静岡県駿東郡）
岐阜選別センター（岐阜県安八郡）
金沢選別センター（石川県金沢市）
西宮選別センター（兵庫県西宮市）
関西選別センター（兵庫県小野市）
福山選別センター（広島県福山市）
九州選別センター（佐賀県神埼市）
西日本ペットボトルリサイクル（株）
（北九州市若松区）

配送センター / ピッキングセンター

北海道配送センター（北海道石狩市）
東北配送センター（山形県寒河江市）
関東ハブセンター（茨城県結城郡）
八王子配送センター（東京都八王子市）
中部ハブセンター（岐阜県安八郡）
東海配送センター（静岡県駿東郡）
関西ハブセンター（兵庫県小野市）
福山ハブセンター（広島県福山市）
九州配送センター（佐賀県神埼郡）
北海道ピッキングセンター（北海道石狩市）
東北ピッキングセンター（宮城県黒川郡）
関東ピッキングセンター （茨城県結城郡）
茨城ピッキングセンター（茨城県結城郡）
八王子ピッキングセンター（東京都八王子市）
新潟ピッキングセンター（新潟県長岡市）
中部ピッキングセンター（岐阜県安八郡）
関西ピッキングセンター（神戸市北区）
福山ピッキングセンター（広島県福山市）
九州ピッキングセンター（佐賀県神埼郡）

（2026年3月末時点）

人材データサマリー

詳細はこちら

エフピコの社会性に関するデータを紹介します。

従業員の構成（2026年3月末現在）		男	女	合計
従業員数	（人）	673	351	1024
外国人従業員数	（人）	1	5	6
平均年齢	（人）	45.5	36.2	42.3
30歳未満		105	124	229
30～39歳		128	92	220
40～49歳		155	105	260
50～59歳		191	22	213
60歳以上		94	8	102
平均勤続年数	（年）	17.2	12.5	15.6
連結従業員数	（人）	3,954	1,352	5,306

離職者数		早期	自己	会社	転籍	その他	合計
2025年度	（人）	0	25	0	1	0	26

新卒入社者の定着状況		男	女	合計
2023年4月新卒入社者数	（人）	20	12	32
2026年4月在籍者	（人）	16	12	28

	女（人）	男（人）	女性比率（%）
管理職に占める女性比率	78	392	16.6%

障がい者雇用		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
実人数	（人）	365	365	393	401	405
障がい者雇用率	（%）	12.6	12.5	12.6	12.6	12.5

ワーク・ライフ・バランス		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
有給休暇取得率	（%）	56.1	57.6	63.6	58.6	60.1
一人あたり月平均残業時間	（時間/月）	7.8	7.7	7.5	8.9	7.1
産前産後休業取得者数	（人）	15	14	18	19	14
育児休業取得者数	（人）	15	20	20	25	23
女性		13	18	15	19	11
男性		2	2	5	6	12
女性取得率	（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
男性取得率	（%）	9.1	9.5	21.7	27.3	50.0
育児休業復帰率	（%）	95.2	100.0	95.2	100.0	82.4
男性育児休暇等取得率※	（%）	-	-	82.6	69.2	85.3

※エフピコ独自の休暇制度（育児を目的とした連続5日間の休暇）と育児休業を合わせた取得率

財務サマリー（連結）

エフピコグループの業績に関するデータを紹介します。

回次		第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
決算年月		2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高	（百万円）	195,700	211,285	222,100	235,628	240,490
経常利益	（百万円）	16,703	17,328	16,780	18,451	21,768
親会社株主に帰属する当期純利益	（百万円）	11,206	11,529	11,724	12,486	14,869
包括利益	（百万円）	11,118	11,558	12,485	12,812	16,806
純資産額	（百万円）	132,455	140,171	145,844	154,114	165,171
総資産額	（百万円）	262,695	298,623	298,580	292,226	304,062
1株当たり純資産額	（円）	1,610.11	1,703.56	1,795.71	1,897.68	2,033.28
1株当たり当期純利益	（円）	136.96	140.87	143.50	154.46	183.87
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	（円）	-	-	-	-	-
自己資本比率	（%）	50.2	46.7	48.6	52.5	54.1
自己資本当期純利益率	（%）	8.8	8.5	8.2	8.4	9.4
株価収益率	（倍）	21.3	23.3	19.2	18.3	12.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	23,148	20,071	29,176	27,919	29,981
投資活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△22,866	△34,306	△10,711	△14,929	△16,594
財務活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	1,578	16,745	△17,013	△18,070	△6,928
現金及び現金同等物の期末残高	（百万円）	19,745	22,255	23,707	19,020	25,478

※潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

環境データサマリー

エフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を正確に把握することに努めています。以下は、CO_2排出量及び部門ごとの物質収支・エネルギー使用量です。

CO_2排出量（Scope2はマーケットベース）

	2026年3月期（t-CO_2）
Scope 1	6,680
Scope 2	170,385

詳細はこちら

エフピコグループCO_2排出量Scope1・2・3の詳細 ▶
温室効果ガス（CO_2）排出量の第三者保証報告書

エフピコの物流循環システム





静脈物流
製品を配送した帰りの便が、使用済み容器を回収しリサイクル工場へ運びます。

動脈物流
製品を迅速にお届けするために整備した物流ネットワークで、効率的に配送を行います。

使用済み食品トレー・透明容器の回収は帰り便トラックを利用（静脈物流）

回収　回収

消費者



回収 ≫
販売 ≪

ユーザー（スーパーマーケットなど）



回収 ≫
販売 ≪

包材問屋



OUTPUT ≪
製品



静脈物流

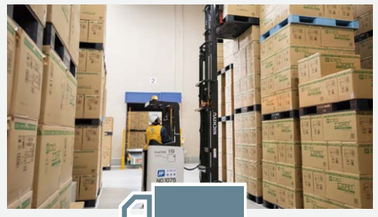


INPUT
回収品

物流部門

配送センター ⇔ 各配送センター間輸送 ⇔ 配送センター

INPUT ≪ 電力 水 事務用品



OUTPUT ≪
製品

動脈物流

OUTPUT ≪
廃棄物

INPUT ≪
製品

外注工場

生産部門

リサイクル工場



OUTPUT ≪
端材

再生原料
INPUT ≫

生産工場



INPUT ≪ 原料 エネルギー 資材等

OUTPUT ≪
製品



OUTPUT ≪
廃棄物 汚染物質

製造部門2025年度データ

INPUT	エネルギー	電力	408,527,524 kWh
		化石エネルギー	80,849,413 MJ
	水資源	上水	618,439 ㎥
		地下水	81,726 ㎥
		工業用水	177,385 ㎥
	原料（樹脂類他）		229,100 t
	副資材	段ボール	40,598 t
		包装ポリ	3,546 t
	その他	潤滑油	8,638 L
		シンナー	67,941 L
		紙	3,272,500 枚

OUTPUT	製品	製品生産重量	213,793 t
		出荷トラック台数	168,970 台
	廃棄物		25,315 t
	環境汚染物質	煤塵	22 Kg
		NOx	2,996 Kg
		BOD	52 Kg
		COD	115 Kg
		SS	53 Kg

物流部門2025年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	19,062,984 kWh
	化石エネルギー	4,302,036 MJ
水資源	上水	19,915 ㎥
その他	紙	9,743,838 枚

OUTPUT	
廃棄物	475 t

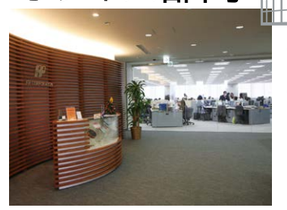
オフィス部門2025年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	4,290,928 kWh
	化石エネルギー	24,786,215 MJ
水資源	上水	7,259 ㎥
その他	紙	9,640,350 枚

OUTPUT	
廃棄物	50 t

オフィス部門

OUTPUT ≪ 廃棄物



INPUT ≪ 電力 水 事務用品

ESG 指数・社会的な評価等

ESG指数

FTSE JPX Blossom Japan Index

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

エフピコは、ESG（環境・社会・ガバナンス）の対応に優れた企業で構成される「FTSE JPX Japan Index」および「FTSE JPX Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に、2019年より継続して選定されています。これらの指数は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の判断基準として採用する重要な指標であり、当社の持続可能な社会への取り組みと透明性の高い経営が評価されたものと認識しています。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法に基づき開示された女性雇用に関するデータをもとに、多面的な視点から性別多様性スコアを算出し、各業種においてスコアの高い企業を選定して構築された指数です。米国のMSCI社が開発したESG指数の一つであり、「FTSE JPX Blossom Japan Index」と同様に、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が採用するESG指数です。

S&P/JPX カーボン・エフィシェント指数

GPIF採用指数の一つで、環境情報の開示状況と炭素効率性の水準に着目して設計されたインデックスです。

2026 Sompo Sustainability Index

SOMPOサステナビリティ・インデックスは、SOMPOアセットマネジメント株式会社が設定する、ESG評価に優れる約300銘柄で構成される国内株式投資型のESG指数です。SOMPOリスクマネジメント株式会社が実施する「環境経営調査」と「ESG経営調査」によるESG評価を基に銘柄が選定され、当社は5年連続の選定をいただいております。

アワード

エコマークアワード
2024 優秀賞

（財）日本環境協会が主催する表彰制度で、エフピコは2010年の金賞に続き優秀賞を受賞。「トレーtoトレー®」リサイクルは1991年にエコマーク認定を取得し、消費者参加型の活動として全国の店舗で展開。サーキュラーエコノミーの先駆けとして評価されています。

EcoPro Awards

エフピコは、一般社団法人サステナブル経営推進機構が主催する「第8回エコプロアワード」において奨励賞を受賞。同アワードは、サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）の実現に寄与する取り組みを表彰する制度であり、エフピコの循環型リサイクルの取り組みが評価されました。

外部評価

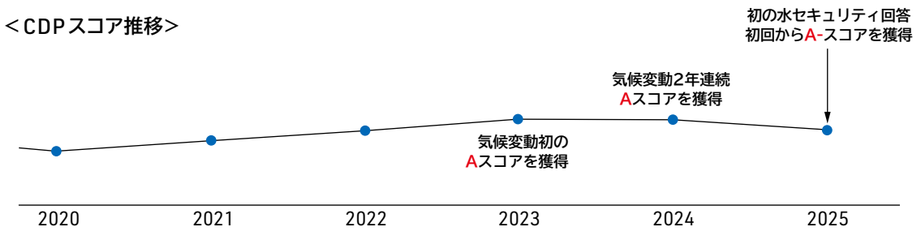
CDP気候変動への情報開示
2025年度評価「A-」

サプライヤー・エンゲージメント評価
2025年度評価
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」

2025年CDP回答はこちら

国際的な非営利団体CDPによる環境情報開示において、当社は「気候変動」および「水セキュリティ」の調査で最高評価に次ぐ「A－（リーダーシップレベル）」に選定されました。さらに、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出削減への働きかけを評価する「サプライヤーエンゲージメント評価（SEA）」においては、3年連続で最高評価である「A」を獲得いたしました。今後もステークホルダーの皆様と深く連携し、持続可能なバリューチェーンの構築と環境課題への対応をより一層強化してまいります。

＜CDPスコア推移＞



2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

「健康経営優良法人（大規模法人部門）」は従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取り組みを戦略的に実践する企業を表彰するものです。エフピコは2022年から5年連続で認定されています。

SPORTS YELL COMPANY 2026

スポーツ庁から「スポーツエールカンパニー2026」に認定されました。スポーツエールカンパニーには、2018年度以来8年連続認定を受けており、シルバー認定は2年連続となりました。

※スポーツ庁では、「働き盛り世代」のスポーツ実施を促進し、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行っている企業を「スポーツエールカンパニー」として認定しています。

D&I AWARD BEST WORKPLACE for diversity & inclusion 2025

ダイバーシティとインクルージョンに取り組む企業を評価する日本最大のアワード「D&I AWARD」で3年連続最上位の「ベストワークプレイス」に認定されました。長年にわたる障がいのある人材の雇用推進や、仕事と育児の両立支援の取り組みなどの強化が評価されました。

エフピコのあゆみ

1962	福山パール紙工株式会社設立。広島県福山市古宮町（現在の霞町）に 福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
1972	福山配送センター（広島県福山市）を開設、以後各地に配送センターを設置
1976	自社製品の展示会「パールフェア（現工フピコフェア）」第1回目を開催
1979	配送体制強化のためエフピコ物流（株）を設立
1981	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
1983	東京支店（東京都練馬区）を開設
1985	大阪支店（大阪府大阪市）を開設 関東工場（茨城県八千代町）稼働、以後各地に生産工場を設置
1989	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める 広島証券取引所に株式上場
1991	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
1997	代表取締役社長（当時）小松安弘が『藍綬褒章』を受章
2000	特例子会社（株）ダックス四国本社工場（高知県南国市）を竣工、 以後各地に特例子会社の事業所を設置 東京証券取引所市場第二部に株式上場
2001	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
2003	東日本ハブセンター（茨城県八千代町）完工
2005	東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
2006	就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛パック（株） （現エフピ コ愛パック（株））設立、以後各地に愛パックの事業所を設置
2007	福山本社建て替え
2012	PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
2013	代表取締役会長（当時）小松安弘が『旭日重光章』を受章
2014	福山クロスドックセンター稼働（広島県福山市） エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工（広島県福山市）
2015	経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出 経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定 経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞（製品・技術開発部門）」優秀賞受賞







福山本社



エフピコ総合研究所・人材開発研修センター

2016	代表取締役会長（当時）小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
2017	創業者小松安弘永眠
2018	エフピコアルライト（株）本社工場竣工 広島営業所新社屋竣工 平成30年度「スポーツエールカンパニー」認定（スポーツ庁）（以降9年連続取得中）
2019	第一回ジャパンタイムズESGアワード
2020	福山市総合体育館のネーミングライツを取得した 「エフピコアリーナふくやま」オープン
2021	中部ハブセンター竣工
2022	東京証券取引所プライム市場へ移行（証券コード：7947） マレーシアのプラスチック製食品容器メーカーLee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.の株式を取得 健康優良法人（大規模法人部門）取得（以降5年連続取得中）
2023	関西工場・関西ハブセンター竣工（兵庫県小野市） えるぼし（2段階目）認定取得
2024	関西選別センター竣工
2025	「NIKKEI社歌コンテスト2025」大賞受賞 第20回世界バラ会議福山大会2025協賛出展 大阪・関西万博出展
2026	エフピコグループ8社が健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）に認定



エフピコアリーナふくやま



関西工場・関西ハブセンター

エフピコのあゆみ

環境関連事業/成果など

1980	トレー容器のごみ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
1990	エフピコ方式リサイクルスタート
1991	「エコトレー」が業界初のエコマーク認定
1993	（財）クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
2007	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞
2011	「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞 環境大臣より「エコ・ファースト企業」として認定を受ける 再生PET容器「エコAPET」が（財）日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得
2015	地球温暖化防止活動環境大臣表彰（対策活動実践・普及部門）受賞
2016	ペットボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働
2017	関東エコペット工場稼働
2019	「G20イノベーション展」に出展 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」に幹事として参画
2020	「エフピコ環境基金」設立
2021	「カーボンオフセット宣言」発表
2022	関東八千代エリアに太陽光発電導入 エフピコ中長期目標FPEA（エフピコエコアクション）2.0リリース TCFDの提言へ賛同 中部エリアに太陽光発電導入
2023	G7広島サミット 国際メディアセンター（IMC）広報展示で、エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」を出展 東京商工会議所が主催する「eco検定アワード2023」でエコユニット部門の奨励賞を受賞
2024	エコ・ファーストの約束を更新 関西選別センター稼働 エコマークアワード2024 優秀賞受賞 西宮選別センターにマークトレー式選別機を導入
2025	日本経済新聞が主催する「第74回日経広告賞」で環境・サステナビリティ部門の優秀賞を受賞 一般社団法人サステナブル経営推進機構が主催する「第8回エコプロアワード」で奨励賞を受賞
2026	茨城県地球温暖化防止活動推進センターが主催する「いばらきデコ活チャレンジカップ」で茨城県知事賞を受賞 広島県福山市が主催する「ふくやま環境フォーラム」でふくやま環境賞を受賞

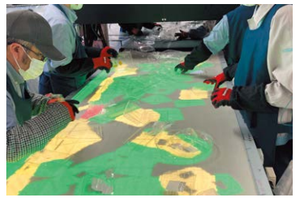














「エフピコレポート」の前身が「CSRレポート」だったこともあり、本誌の編集はサステナビリティ推進室（当時は環境対策室）が担当してきました。編集という慣れない作業に取り組みながら、これまで多くの社員に話を聞いて撮影をし、事業内容やその裏にある私たちの想いを紹介をしてきました。2015年の最初の発行から数えると今年は12年目。干支をひとまわりしたことになります。ほんの少し過去を振り返りながら、今一度、本誌をつくることの意義を心に刻みたいと思っています。



執行役員
サステナビリティ推進室
ジェネラルマネージャー
冨樫 英治

こちらのQRコードまたは当レポートに添えてある用紙よりアンケートにご協力ください



食品トレー・容器のエフピコ。

第74回日経広告賞「環境・サステナビリティー部門 優秀賞」を受賞。
ブランディングムービー『名前は底にあります』のご視聴はこちらから ▶

エフピコ

福山本社　〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15　TEL (084) 953-1145
東京本社　〒163-6037 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 37F　TEL (03) 5320-0717
大阪支店　〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F　TEL (06) 6441-2468
営 業 所　札幌、仙台、新潟、静岡、名古屋、北陸、広島、四国、福岡

ホームページ https://www.fpco.jp/　eメール Env-FP@fpco-net.co.jp